

多賀城市市民活動サポートセンター
平成 26 年度運営業務成果報告書

特定非営利活動法人せんだい・みやぎNPOセンター

平成 27 年 3 月 31 日

多賀城市市民活動サポートセンター 平成26年度運営業務成果報告書 目次

ページ

表紙				
目次				
平成26年度をダイジェストでふりかえる				
Ⅰ 平成26年度運営業務報告	1 方針	1 平成26～28年度施設運営方針		
		2 平成26年度運営方針		
		3 平成26年度事業の目的・背景・対象		
	2 成果と課題			
	3 運営概況	1 利用状況集計	1 推移	
			2 総利用人数・利用団体の属性・利用団体の活動分野	
		2 相談対応実績(件数・種類・分析)		
		3 その他	1 団体情報ファイル数	
			2 ホームページ・ブログ・ツイッターの運用	
			3 共同事務室入居団体インキュベート相談	
			4 出前さぼせん	
		4 事業実施状況	平成26年度実施事業一覧	
	1 参加・育成事業		1 地域づくりサロン	
			2 地域づくりのはじめかた	
			3 NPOいちから塾	
			3 フリーペーパー「tag」発行	
	2 自治活動支援事業		1 プロジェクトを起こそうプロジェクト	
			2 活動お役立ち専門相談	
	3 地域連携事業		1 地域課題の把握のための場づくり	
	4 市職員研修事業	1 市職員研修		
5 リニューアルイベント				
6 自主事業	1 たがさぼ文庫			
Ⅱ 平成27年度施設運営方針	1 多賀城市の動き			
	2 平成27年度施設運営方針	1 平成27年度施設運営方針・実施事業		
		2 平成28年度までのロードマップ		
Ⅲ 添付資料				

80

平成 26 年度をダイジェストでふりかえる

多賀城市市民活動サポートセンター（以下、T S C）がオープンしたのが平成 20 年 6 月。市民活動の拠点施設として、N P Oや自治会・町内会、生涯学習団体等による地域づくりをサポートしてきた。その後、平成 23 年の東日本大震災による未曾有の災害や、平成 25 年度実施のエレベーター設置等に伴う改修工事を経て、7 年という年月が経とうとしている。

平成 26 年度の T S Cは、改修工事によりエレベーターや新たなフリースペースの設置などのリニューアルを終え、記念すべき 1 年目の開館を迎えた。これまで利用しにくかった高齢者や障がい者も利用しやすくなり、貸室や印刷機など含め全体の利用者も増加した。また、事業では、新たな人材の発掘と地域課題の把握に重点を置き、一定の成果を挙げたものの、新たな課題も浮き彫りとなった。

ここで平成 26 年度の T S Cを振り返る上で 4 つのトピックを以下に挙げる。

1. リニューアル記念イベントで地域づくりのこれからを市民とともに再認識

T S Cがオープンした 6 月 1 日（プレイベント 5 月 31 日）に合わせて行ったリニューアル記念イベントは、改めて利用者に対して T S Cが地域に果たす役割やこれからの地域のあり方について伝え、共に考える場となった。リニューアル後は、新規利用者も増え、新たな地域づくりの担い手も輩出することができた。

2. 市民による新しいプロジェクトと団体が誕生

「たがじょうしき壁新聞部」「多賀城プレーパークの会」「ハッピーピース」など T S Cの事業や相談機能を活かして、地域課題解決に向けた市民主体のプロジェクトや団体が新たに誕生した。また、プロジェクトの実施や団体の立ち上げまでには至らなかったものの、次年度の活動への準備を進めている段階の市民も出てきている。

3. 地域に飛び出す T S C

桜木南区町内会の夏祭りサポートをはじめ、駅前イベントでのブース出展や多賀城市役所 1 階ロビーでの展示など、T S Cが地域に出て市民の地域づくり支援や P R等を継続的に実施してきた。今年度は、新たなに多賀城市の西部に位置する高橋 4 地区の連携による地域づくりを進めるための懇談会や話し合いにサポート役として参加し、施設外での新たな役割を果たした。

4. フリースペースを活用した市民による場づくり

平成 25 年度の改修工事により T S C内 2 階・3 階に新たなスペースが生まれた。市民による交流や対話が生まれる場として、事業で展示やトークイベント、ワークショップなどを実験的に実施した。会議室とは異なり不特定多数の市民が自由に出入りできる空間として、今後さまざまな形の活用方法も予想される。

T S C 平成 26 年度の主な出来事

平成 26 年

4 月

1 日 リニューアルオープン

1 日～11 日 昭和の多賀城写真展（多賀城市役所 1 階ロビー）※平成 25 年度講座関連企画

21 日～5 月 11 日 利用者アンケート実施

5 月

31 日 リニューアル記念プレイベント

6 月

1 日 リニューアル記念イベント

21 日 みんなのマルシェ出展

7 月

8 日 大船渡市民活動サポートセンター視察受入

24 日 柴田町視察受入

8 月

22 日 岩沼市市民活動サポートセンター視察受入

22 日 岩手県立大学学生視察受入

9 月

6 日～20 日 地域づくりサロン① デザインTシャツ展（13 日 トークイベント）

7 日 NPO まちおこし結っこ視察

18 日 高崎経済大学櫻井ゼミ視察

27 日 地域づくりのはじめかた① 多賀城まち知るハイキング

10 月

4 日 NPO いちから塾①

16 日・18 日 プロジェクトを起こそうプロジェクト① たがさんぽ

21 日 インキュベート相談会

25 日 活動お役立ち専門相談① 資金の基礎を学ぶ講座

31 日 地域づくりサロン② 「読む」だけじゃない！？見つかる本の楽しみ方

11 月

- 1 日 地域づくりのはじめかた② ライト取付け体験
- 7 日・8 日 プロジェクトを起こそうプロジェクト② 人が集まる「場」のつくりかた
- 8 日 高橋地区地域づくり勉強会
- 11 日 岩沼市市民活動サポートセンター視察受入
- 17 日 高橋地区地域づくり懇談会
- 29 日 活動お役立ち専門相談② プロが教えるチラシづくり実践講座

12 月

- 6 日 インキュベート相談会
- 8 日 高橋地区地域づくり懇談会
- 13 日 地域づくりサロン② クリスマス雑貨市
- 15 日 由仁町視察受入
- 19 日 NPO いちから塾②

平成 27 年

1 月

- 17 日 地域づくりのはじめかた③ トークイベント（ピースジャム）
- 19 日 高橋地区地域づくり懇談会
- 27 日 市職員研修①
- 31 日 活動お役立ち専門相談③ 組織運営個別相談会

2 月

- 5 日・6 日 市職員研修②
- 13 日 市職員研修③

3 月

- 8 日 NPO 法人パートナーシップなとり視察対応
- 21 日 プロジェクトを起こそうプロジェクト③ 「マイプラン」づくりはじめの一步講座
- 21 日 高橋地区ふれあい卓球フェスティバル

I

平成 26 年度
運營業務報告

I - 1 - 1 平成26～28年度施設運営方針

T S Cが目指す多賀城のまちの姿

あらゆる地域資源を活かした市民による市民のためのまち

市民自らが地域にとって必要な価値を、市内外の地域資源を活かしながら他セクターとの協働でつくりだす。

平成 28 年の T S C の姿

市民の主体性が育まれる場所として、市民が自分たちの手で地域の魅力を高めたり、課題解決に取り組むための、地域資源が集まり新たなつながりが生まれる地域づくりの拠点となる。

T S C 運営の前提

当館利用者のニーズに合わせた柔軟な施設運営を行い必要な支援サービスを開発する。既存の N P O、自治会・町内会、生涯学習団体への継続的な支援や企業の C S R 支援を行う。市民活動に関する最新の情報を収集し発信し続ける。N P O、自治会・町内会、企業、行政、公共施設、周辺市町などと連携し包括的な地域づくりの一端を担う。市民の力を信じ、市民とともに地域に新たな価値をもたらす。スタッフの支援能力の向上に努める。

平成 26 年～28 年まで T S C 運営において特に力を入れること

①地域づくりに関わる人材の発掘と育成

市民活動の既活動者、潜在的活動者、無関心層などあらゆる層に向けて地域づくりに関する働きかけを行い次世代のリーダーや地域のコーディネーターを発掘・育成する。また、N P O、自治会・町内会、生涯学習団体など地域づくりに関わる団体へのさらなる力づけを行う。合わせて、地域づくりに関わる人・団体へ市内外の価値ある情報をさまざまな広報ツールを活用して届ける。

②地域の課題を解決する、地域の価値を創造するためのネットワークの構築

地域が抱える課題を可視化し、地域で活動する人材や団体が持つ資源を共有・交換し地域連携が促進される仕組み（ネットワーク）をつくり、課題解決や新たな価値の創造につなげる。また、公共施設や関連機関とのネットワークを強化し、包括的な地域づくりの体制をつくる。

I-1-2 平成 26 年度運営方針

(1) 市民活動への参加の機会の創出

平成 26 年度で 6 年目を迎えた T S C だが、地域づくりの担い手となる人材はまだまだ少数である。地域にいる多様な主体が市民活動にで出会い、参加し新たな活動者になることが市民活動の促進とつながる。そのために、地域づくりに対して無関心な層、想いはあるもの実践に移せていない潜在的活動者に向けて、市民活動の入口となる多様な場を生み出し活動への参加を促す。

(2) N P O、自治会・町内会等の既存活動者・組織の力づけ

既存の団体は、人材や資金面など含め多くの課題を抱え、継続的・発展的な活動に至らない団体も多い。また、活動の長い団体も会員相互の親睦や教養・技術の習得を主として団体も多く見られる。事業や相談などを通して、組織基盤の強化や事業の発展につがる支援を継続的に行うことで、団体の力づけを行う。

(3) 地域課題の把握

少子高齢社会や東日本大震災の影響により表にあらわれた地域課題の解決に向けて地域の多様な主体でネットワークをつくる必要がある。そのために本年度は T S C が地域に出て、今、地域にどのような課題があり、どのような資源があるかを把握する。

I-1-3 平成 26 年度事業の目的・背景・対象

(1) 参加・育成事業

目的：地域づくりを担う人材を発掘・育成する。

背景：地域づくりの担い手の高齢化や不足が進んでいる。

対象：無関心層・潜在的活動者

(2) 自治活動支援事業

目的：団体やプロジェクトの立ち上げ支援や市民活動団体、自治会・町内会等既存団体の組織基盤を強化する。

背景：活動団体数が少ない。資金面や人材等、組織運営上の課題を抱えている。

対象：潜在的活動者・既活動者（NPO・自治会・町内会等）

(3) 地域連携事業

目的：地域課題（魅力）の把握、地域づくり関わる人材・団体を把握する。

背景：地域づくりをすすめる上で地域のニーズが見えにくい、あるいは地域づくりに関わる人材・団体が地域で孤立しているケースが見受けられる。また、地域内・地域間での情報共有やノウハウ共有が進んでおらず、ネットワークが希薄である。

対象：モデル地区（高橋）の町内会会長・役員／民生委員／社会教育推進委員／スポーツ振興委員／環境推進員／地域住民／市担当職員ほか

(4) 市職員研修事業

目的：多賀城市職員に、市民による問題解決行動（市民活動）と協働の本質について事例を通して理解してもらうことで、協働推進の基盤をつくる。

背景：「多賀城市地域づくり基本指針」や「地域づくり支援制度」の将来的な導入の動きに合わせて、地域と行政職員との信頼関係を深化させることで、今後、多賀城市における協働の地域づくりがさらに推進される。

対象：職務の級が 3 級の職員、その他受講を希望する職員

(5) リニューアル記念イベント

目的：リニューアルした T S C の設置目的や機能を改めて市民に周知するとともに、多様な市民の地域づくりへの参加のきっかけの場とする。

背景：平成 26 年 4 月からは施設がリニューアルされ、より利用しやすい環境となった。T S C の設置目的や機能を改めて市民に伝える必要がある。

対象：無関心層・潜在的活動者・既活動者

I -2 平成 26 年度成果・課題

<全体総括>

●開館からの変化

【市民活動団体】

平成 20 年の開館から 6 年が経過し、地域への想いをカタチにする個人や団体が確実に増えている。T S C の相談機能を活用して立ち上がった団体は開館から 20 を超え、平成 26 年度も「多賀城プレーパークの会」や「ハッピーピース」といった団体が新たに活動を始めている。また、団体同士・活動者同士の出会いもこれまでは T S C スタッフを介することが多かったが、キーパーソンとなる活動者の動きにより利用者同士で出会う機会も増えており、つながりに広がりが見える。

しかし、課題解決型の市民活動団体は少なく、例えば高齢者や障がい者の公的制度外のニーズは寄せられるものの、対応できる団体がいない状況が続いている。同じように D V、不登校、生活困窮者支援も仙台を拠点とする団体につないでいる状況である。

【自治会・町内会】

自治会・町内会は開館当初印刷機の利用が中心だったが、行事に協力してくれる団体とのマッチングや広報に関することを中心に相談機能を活用し、運営に工夫を加えながら活動する地域も出てきている。

担い手不足、若い世代の不参加を課題としている自治会・町内会が多いが、他地区のモデルとなるような具体的な対策を講じている地区は少ない。これからは行事ではなく予想される地域課題に対して対応が必要だと気づいている自治会・町内会も出てきているが、全市的な動きには至っていない。

【生涯学習団体】

公共機関が主催する講座受講者が講座終了後に活動を継続するために自主的にサークルを立ち上げる際の、団体の立ち上げ方の相談先や活動場所として T S C が活用されつつある。

生涯学習団体の中で自分たちの学びを地域の課題解決に活かす団体は少なく、メンバーの固定化・減少化が進んでいる団体も見受けられる。

【開館以来複数年で見えてきた成果】

開館当初から実現したい想いを相談されていた方が仲間との出会いによって活動を始めたり、「tag」をきっかけに「何か地域のために活動したい」と来館した方が既存の団体に参加するかたちで活動を始め、1 年後には自ら活動を立ち上げたいとの相談に発展したり、T S C の講座や相談を活用しながら活動を立ち上げた方が、想いをかたちにするまでのプロセスを講師として伝える側になったりと、数年かけて育まれる事例が出てきている。

平成 26 年度からは 3 年間の複数年契約となったことにより、単年度ではなし得ない上記のような活動の芽を育む取り組みが可能となった。

●改修工事後の変化

平成 25 年度の改修工事を経て平成 26 年 4 月にリニューアルオープンを迎え、これまで利用者からの声が多数寄せられていたエレベーターが設置されたことにより、高齢の方や障害のある方、子連れの方、大きな荷物がある場合でも移動しやすくなったことは、市民活動・地域活動の促進の支えになっている。これまで来館を控えていたという電動車イスを利用している方の来館もあり、地域課題解決のための活動を支える拠点施設としてなくてはならない機能がやっと整ったことは大きな成果である。

新たに設けられた 2・3 階のフリースペースは、自治活動支援事業「プロジェクトを起こそうプロジェクト」で取り組んだ「フリースペースの活用」の講座や実践を通して、貸室の中で行われる閉じられた活動ではなく、だれでも立ち寄ることができるオープンなスペースで活動することで得られる出会いなどの効果を生みはじめている。

<方針に沿った成果・課題>

(1) 市民活動への参加の機会の創出

【成果】

- 参加育成事業を通して、これまで市民活動に関わったことのない方に知る機会を提供し、さまざまな参加の方法を示し、活動に参加する・支援するといった実際の行動につなげることができた。
- 地元新聞への掲載をきっかけに事業に参加された方の多くは T S C の存在を始めて知った方であり、T S C 自体の認知向上にもつながった。

【課題】

- 市民活動・地域活動に知る・関わるきっかけの提供まではできるが、実際に活動に関わる・担い手となるための支援方法は継続して取り組みながら検討し、確立していく必要がある。

(2) N P O、自治会・町内会等の既存活動者・組織の力づけ

【成果】

- 事業後のアフターフォロー相談を強化することにより、事業をきっかけに T S C をおとずれ日常的に相談できる関係を育んだ。事業と相談との連携によって既存活動者・組織の力づけにつながった。
- 相談者の状況に応じた対応をすることによって、自らが持つ資源を活かした活動のステップアップにつなげることができた。
- 「多賀城プレーパークの会」「ハッピーピース」等、T S C でのつながりや支援をきっかけの一つに新たな活動が生まれた。彼らが市民に刺激を与え、さらに新たな活動者が生まれるような環境づくりの第一歩となった。

【課題】

- 個々の活動に留まり、連携の動きが鈍い状況にある。地域づくりを進める上では欠かすことができない活動者・団体同士が知り合い、協力し合う関係性づくりに一層取り組む必要がある。

（３）地域課題の把握

【成果】

- 多賀城市地域づくり支援制度の実現に向けた区長会の勉強会や教育委員会の実施する学校支援地域本部事業の研修等に参加したことで、地域での活動の状況や抱える課題を把握することができた。
- 上記の勉強会等に参加したことでT S Cの活用方法の周知の機会にもなり、T S Cの利用を通して地域で活動する方との関係性づくりの一步となった。

【課題】

- 地域課題（あるいは魅力）の深掘りや、町内会をはじめとした地区の各種団体役員からさらにひろく人材・団体の把握には至らなかった。

<事業の成果・課題>

（１）参加・育成事業

主に現役世代の無関心層や潜在的活動者を対象に、市民活動そのものや多様な関わり方を知るきっかけを提供した。「地域づくりサロン」は好きなこと・興味のあることをきっかけに、「地域づくりのはじめ方」は活動実践者から話を聞くことや活動の体験を通して、「NPOいちから塾」ではNPOの基礎情報を、「tag」では地域情報の発信を、事業ごとに多様な入口を設け、市民活動・地域活動の新たな担い手の発掘・育成を行った。

実施にあたっては、参加者のステップにあわせた事業間の連動を意識した。

【成果】

- 「地域づくりサロン」では、「本」をテーマにした回では、本好きな方からすでに活動をしている方まで多様な参加者同士の情報交換が活発に行われ、イベント後に交流の機会を設けたことで、講座の場一度限りではない関係づくりが継続している。回を重ねるうちに、交流だけではなく自分たちで活動してみようという芽も出始めている。「雑貨」をテーマにした回では、のべ260名の集客があり、アンケートに回答した86名のうち約半数がT S C初来館者であり、多くの方に市民活動を知る・関わる機会を提供できた。運営面では、東北学院大学工学部生のボランティアスタッフを導入し、T S C自体がボランティア活動の場となるきっかけとなった。
- 「地域づくりのはじめ方」では、「史跡を活かした活動にふれるまち歩き」「イルミネーションライト取付け体験」「サロン事業と連動した活動実践者のトーク」という多様なプログラムを通して、座学では伝えきれない活動の魅力を体感する機会を提供するとともに、ボランティア希

望者のニーズを発掘する機会となった。

- 「NPOいちから塾」では、NPOの成り立ちや組織の特性などNPOの基礎情報をわかりやすく伝えることで、すでに活動している方にはNPOで活動することの再確認の機会を提供することができた。これから活動しようと考えている方は、講座をきっかけに「地域づくりサロン」「地域づくりのはじめ方」といった他の事業への参加につながり、実際に活動を始めるきっかけを提供した。

【課題】

- 市民活動・地域活動を知るあるいは関わるきっかけの提供まではできたが、実際に活動に関わる・担い手となるための支援方法は継続して検討が必要である。

（２）自治活動支援事業

地域活動・市民活動を担う人材の育成や市民活動団体、自治会・町内会等既存団体の組織基盤強化を図る。「プロジェクトを起こそうプロジェクト」では、より実践的なプログラムにより、地域の課題解決に向けて新たなプロジェクトが起こるよう、地域課題の発見・解決する力を育む事業である。「活動お役立ち専門相談」は講座や実践者を専門相談員に招く相談会、スタッフによるアフターフォロー相談を通して、市民活動団体、自治会・町内会等の組織基盤強化を目的とした事業である。

【成果】

- 「プロジェクトを起こそうプロジェクト」の「まちあるき」では地域活動ですぐに活かせる視点を提供できた。「フリースペースの活用」では5つの企画案が立てられ、うち2つの企画が実施され、スタッフの伴走型支援により企画・運営のノウハウを提供することができた。また、改修工事後新たに生まれた2・3階のフリースペースの活用方法を検討する材料の蓄積ができ、次年度からの試験運用につなげることができた。
- 講座や相談会、アフターフォロー相談で得た資金調達やチラシづくり、組織運営のアドバイス・ノウハウをすぐに実践した市民活動団体・町内会には、自己資金率アップ、情報が整理され伝わりやすいチラシによる周知の拡大などの具体的な改善がみられた。

【課題】

- すでに活動を行っている方・団体のステップアップの成果は出てきているが、想いをかたちにするため行動に移すことができるような支援方法は継続して検討が必要である。

（３）地域連携事業

連携する多賀城市地域づくり支援制度のモデル地区である高橋地区懇談会において話し合いのサポートとしての関わりを通して、地域課題（あるいは魅力）の把握、地域づくり関わる人材・団体を把握し、地域課題解決に必要なネットワークの構築をめざす。

【成果】

- 高橋地区懇談会への関わりを通して、地区の課題や活動の様子、活動者を把握しつつある。話

し合いのノウハウや地域資源のつなぎ方など、地区の役員を中心に新たな地域づくりのノウハウを提供することができた。

【課題】

- 地域課題（あるいは魅力）の深掘りや、町内会をはじめとした地区の各種団体役員からさらにひろく人材・団体の把握には至らなかった。

（４）市職員研修事業

多賀城市が市政運営の基本としている市民協働の基盤づくりのために、市民活動の現場訪問を通して市民活動の本質や協働の基礎を学ぶことで、自らの仕事への活かし方を考える事業である。

【成果】

- 市民による地域課題解決行動の本質とともに、公共の担い手は行政だけでないこと、市民協働の本質への理解が深まった。
- 市民協働を進める上で課題の共有等のプロセスで必要となるワークショップの手法を学ぶことで、理論だけでなく実務の中で役立つノウハウも得ることができた。

【課題】

- 知識を得るにとどまらず、より仕事の現場で活かせるプログラムを開発する必要がある。
- 多賀城市としてどのように市民協働を進め、そのためにどのような職員を必要としているのかを明らかにする。その上で長期的な視点に立ち、どの職歴にどのような研修が必要なのかを市とともに検討する必要である。

（５）リニューアル記念イベント

平成 25 年度の改修工事を経て平成 26 年 4 月にリニューアルを果たした T S C のお披露目の機会とするとともに、地域づくりに関わる人材の発掘、今後の地域づくりを考えるきっかけを提供した。

【成果】

- 既活動者に改めて市民活動の意義を伝えることができたとともに、既活動者に比べ少数ではあるものの潜在的活動者・無関心層に向けても市民活動を知る機会を提供できた。
- イベント後に「たがじょうしき壁新聞部」として参加者が自発的な活動を立ち上げ、継続している。参加者が主体的に活動できるようなサポート役に徹し、市民がまちの魅力を発信する多賀城初のメディアをつくる活動を生み出した。

※上記事業の具体的な報告は 37 ページから掲載する。

3 運営状況

I-3-1 利用状況集計

1 主な項目の利用状況推移（平成20～26年度）

		貸室		フリースペース			印刷機		情報揭示	パソコン	相談対応		レターケース	総利用	
		利用件数	利用人数	利用件数	利用人数	カウント数	利用件数	利用枚数	受付件数	利用件数	件数	人数	取扱数	件数	総数
		件	人	件	人	人	件	枚	件	件	件	人	件	件	人
平成20年度		972	13,170	125	404	959	378	218,318	878	190	297	346	189	3,065	14,001
平成21年度		1,366	18,992	90	220	1,337	551	342,248	1,031	356	309	374	437	4,162	19,641
平成22年度		1,242	16,229	87	251	1,168	619	361,553	1,267	168	354	397	195	3,944	16,951
平成23年度		1,971	26,769	149	539	1,596	801	479,306	1,186	195	527	647	260	5,100	28,015
平成24年度		1,889	22,922	229	597	1,646	918	603,693	1,385	288	287	375	537	5,543	23,951
平成25年度		1,442	16,488	143	410	1,137	807	576,452	1,587	114	226	306	701	5,032	17,236
平成26年度	4月	144	1,889	6	20	226	107	99,166	127	9	22	27	16	433	2,160
	5月	169	2,157	15	42	151	59	35,149	169	3	23	30	38	476	2,305
	6月	166	2,135	9	160	123	71	41,710	142	3	28	30	41	460	2,422
	7月	195	2,392	12	30	139	83	38,325	173	7	29	35	6	508	2,586
	8月	144	1,600	9	46	126	62	27,824	144	2	21	21	12	396	1,752
	9月	193	2,103	9	56	184	63	43,916	155	2	31	45	26	483	2,312
	10月	196	1,896	8	17	133	79	60,704	193	1	26	31	90	594	2,053
	11月	199	2,316	10	60	173	55	51,231	133	1	29	30	2	431	2,489
	12月	144	1,566	8	30	110	53	42,598	141	0	23	25	6	376	1,707
	1月	142	1,591	9	27	148	55	35,236	158	2	38	42	25	429	1,725
	2月	177	2,034	9	58	180	54	41,741	176	1	38	55	91	547	2,215
	3月	200	2,491	9	45	228	73	49,237	150	3	32	41	10	479	2,694
平成26年度計		2,069	24,170	113	591	1,921	814	566,837	1,861	34	340	412	363	5,612	26,420
前年度比		143%	147%	79%	144%	169%	101%	98%	117%	30%	150%	135%	52%	112%	153%
総計		10,951	138,740	936	3,012	9,764	4,888	3,148,407	9,195	1,345	2,340	2,857	2,682	32,458	146,215
平均		1,564	19,820	134	430	1,395	698	449,772	1,314	192	334	408	383	4,637	20,888

※利用件数・人数は利用票提出分
※カウント数はスタッフによる定時見回り時のべ人数

リニューアルに伴い、貸室・フリースペース・相談対応を中心に、改修工事前をやや上回る利用件数・人数に回復した。

情報関連業務利用状況推移（平成20～26年度）

		印刷機		コピー機	パソコン	情報揭示					貸出図書		
		利用件数	枚数	利用枚数	利用件数	チラシ	団体パンフレット	ポスター	ニュースレター	計	登録者数	貸出件数	貸出冊数
		件	枚	枚	件	件	件	件	件	件	人	件	冊
平成20年度		378	218,318	4,767	190	496		105	277	878			
平成21年度		551	342,248	5,708	356	544		103	384	1,031	37	100	132
平成22年度		619	361,553	4,689	168	649		140	478	1,267	19	132	109
平成23年度		801	479,306	5,355	195	572		118	496	1,186	24	76	116
平成24年度		918	603,693	7,677	288	549	106	167	563	1,385	29	122	158
平成25年度		807	576,452	4,830	114	697	109	136	645	1,587	18	98	137
平成25年度	4月	107	99,166	346	9	46	16	9	56	127	1	4	6
	5月	59	35,149	485	3	67	19	17	66	169	1	7	14
	6月	71	41,710	226	3	63	7	15	57	142	2	8	12
	7月	83	38,325	563	7	86	6	27	54	173	2	14	20
	8月	62	27,824	329	2	75	10	13	46	144	1	6	8
	9月	63	43,916	633	2	81	9	20	45	155	0	6	7
	10月	79	60,704	292	1	97	5	32	59	193	3	9	11
	11月	55	51,231	408	1	55	5	11	62	133	2	5	7
	12月	53	42,598	411	0	60	6	20	55	141	3	6	8
	1月	55	35,236	551	2	67	15	11	65	158	2	9	14
	2月	54	41,741	447	1	90	5	23	58	176	1	8	11
	3月	73	49,237	640	3	56	9	16	69	150	2	7	9
平成26年度計		814	566,837	5,331	34	843	112	214	692	1,861	20	89	127
前年度比		101%	98%	110%	30%	121%	103%	157%	107%	117%	111%	91%	93%
総計		4,888	3,148,407	38,357	1,345	4,350	327	983	3,535	9,195	147	617	779
平均		698	449,772	5,480	192	621	109	140	505	1,314	25	103	130

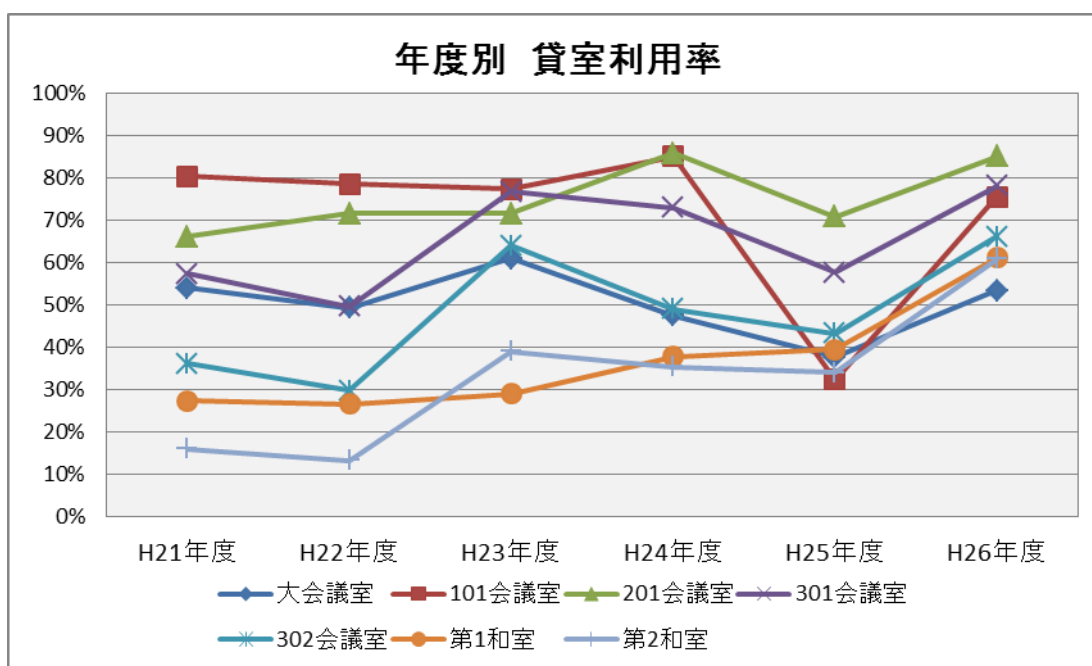
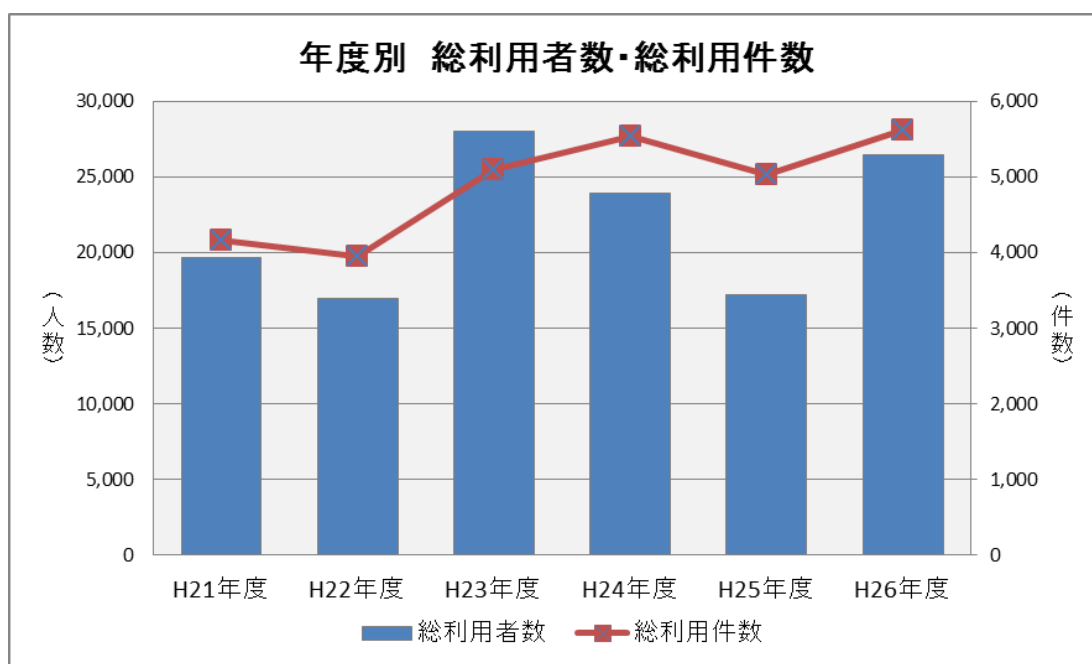
※平成24年度から、パソコンの利用件数は「作業」「インターネット」を分けずに集計する。 ※平成21年6月開設
 ※平成24年度から、情報揭示の利用件数は新たに「団体パンフレット」を加える。

I-3-1-2 利用状況集計

平成 25 年度は改修工事の影響により、利用者数・利用件数が著しく減少した。それにより、平年の数値に近い平成 24 年度の利用状況と比較して、改修工事後の平成 26 年度を分析する。

平成 26 年度の総利用者数は 26,420 人（前々年比+2,469 人）、総利用件数は 5,612 件（前々年比+69 件）。月平均でみると、利用者数は 2,202 人（前々年比+206 人）、利用件数は 468 件（前々年比+6）と、過去 5 年間の平均利用数と比較しても、高い数値を示している。

理由について、貸室利用者はシニア層が多いため、これまで階段を使う 3 階貸室（大会議室・301 会議室・302 会議室）の利用率は低かったが、改修工事によりエレベーターが設置され、3 階貸室の利用率が上昇し、継続して当館を活動拠点に選択する利用者が増加したことが主な要因となっている。



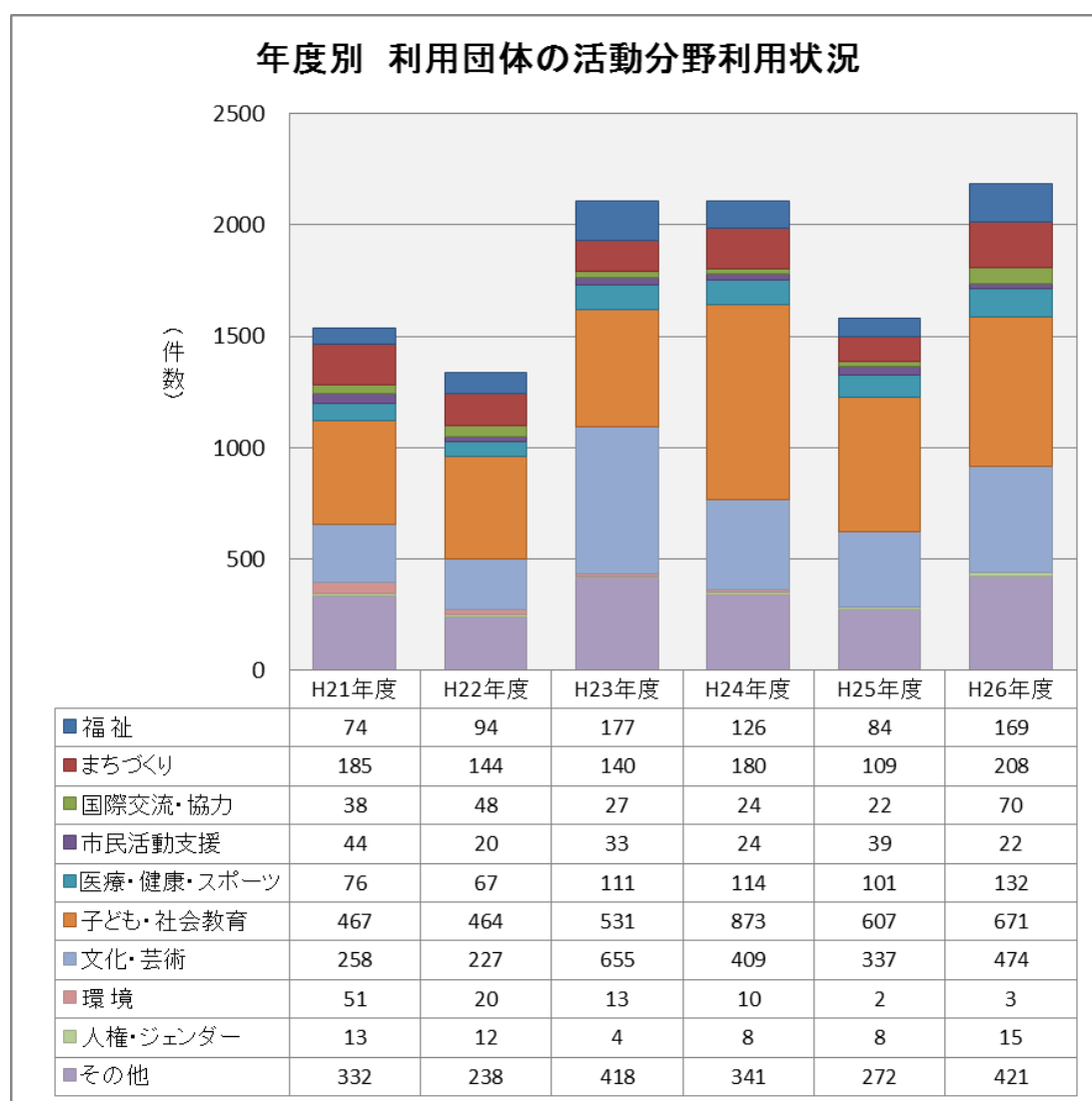
※午前・午後・夜間の貸出区分のうち、1日1区分以上利用がある場合を利用率 100%としています。

利用団体の活動分野

貸室、情報サロン、交流サロン、ギャラリー、事務用ブース利用者の利用票提出に基づく利用団体の活動分野

改修工事が行われていない平成 24 年度と比較した。利用票提出は貸室利用者が約 9 割を占めるため、貸室を定期的に利用する生涯学習団体の「子ども・社会教育」「文化・芸術」の分野が平年並みに高い数値を示している。それを踏まえた上で、各分野で増加したのは、「その他」421 件（+80 件）、「文化・芸術」474 件（+65 件）、「国際交流・協力」70 件（+46 件）、「福祉」169 件（+43 件）の順である。特に「福祉」については、当館貸室を定期的に利用した発達障がいや不登校、ひきこもりなどの困りごとのある、いわゆるボーダーラインの方を対象にした活動や、障がい児のデイサービスや親同士の勉強会の活動が増えたことが要因となっている。また減少した、「子ども・社会教育」671 件（-202 件）については、これまで同分野で定期的に貸室利用してきた団体が対象者を変え、「福祉」へ分野を変えたことが主な要因となっている。

来年度は、当館貸室を利用した「福祉」分野の活動がさらに活発となり、受益者の相談先や、同分野で活動を起こそうとする活動者のモデルにもなることが考えられる。

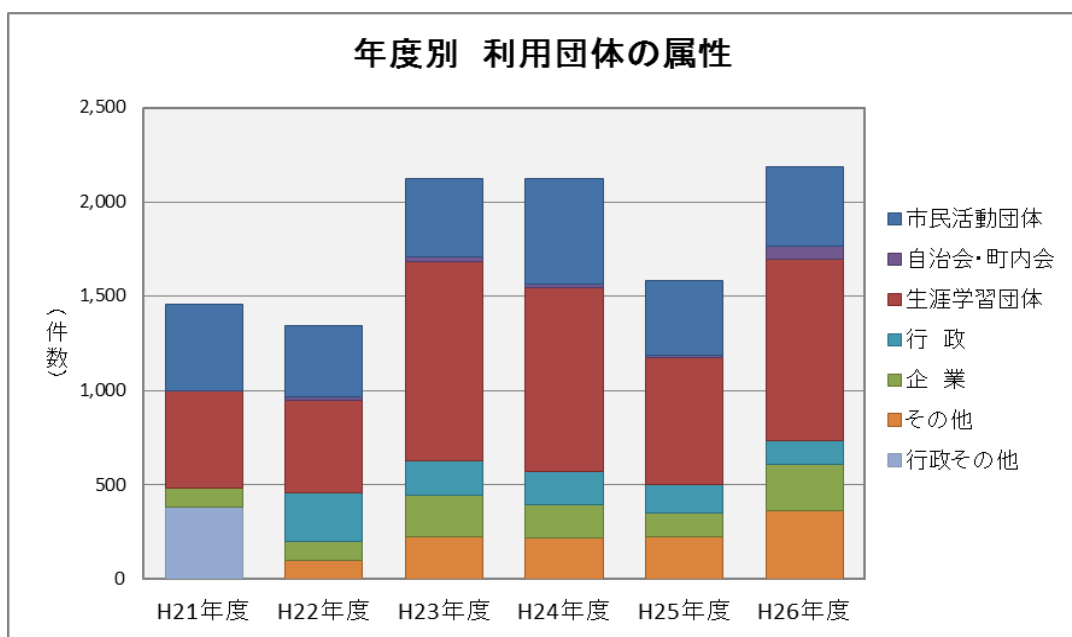


利用団体の属性

貸室、情報サロン、交流サロン、ギャラリー、事務用ブース利用者の利用票提出に基づく利用団体の属性

市民活動団体 : 418 件 生涯学習団体 : 961 件 企 業 : 244 件
 町内会・自治会 : 70 件 行 政 : 127 件 その他（個人など） : 365 件

改修工事が行われていない平成 24 年度と比較した。利用票提出は貸室利用者が約 9 割を占めるため、貸室を定期的に利用する生涯学習団体が平年並みに高い件数を示している。それを踏まえた上で、各属性で増加したのは、企業 244 件（+114 件）、その他（+143 件）である。これは企業が行う面接会や稽古ごとの貸室利用の増加したことであり、その他については個人が開く勉強会などでの貸室利用が増加したことが要因である。また減少した、市民活動団体（-138 件）については、事務用ブース入居団体が退去後、活動拠点を他に移したことが主な要因となっている。



■年度別利用団体の属性（単位：件）

	市民活動団体	自治会・町内会	生涯学習団体	行政	企業	その他	行政その他	合計
H21年度	459	-	515	-	102	-	382	1,458
H22年度	376	18	490	258	101	99	-	1,342
H23年度	417	27	1,054	182	219	226	-	2,125
H24年度	556	19	972	179	173	222	-	2,121
H25年度	394	11	676	148	130	223	-	1,582
H26年度	418	70	961	127	244	365	-	2,157

※平成 22 年度より「行政その他」の分類を、「自治会・町内会」「行政」「その他」と分類している。

I-3-2 相談対応の流れ

●相談対応

市民活動に関する相談は、開館時間中にいつでも対応できるような体制を整備している。

↓

●記録

- ・ 相談対応票に記録
- ・ 相談を分類

支援対象について：主に初めて利用する方に対して、団体の目的や活動内容を確認し、施設の設置趣旨と照らした上で、支援対象か否かを判断している。

施設利用相談：施設の利用方法などの問い合わせに対するもの

市民活動相談：ホップ…NPO基礎情報、ボランティア相談、市民活動団体の情報提供
ステップ…任意団体立ち上げやNPO法人化に関する相談
ジャンプ…資金調達、広報など団体運営に関する相談

受益者からの相談：NPO等のサービスを求めている方からの相談

その他：サポートセンターの運営についての問い合わせなど

↓

●共有

- ・ 継続対応が必要なものは、1日2回の申し送りの時間にスタッフ間で共有
- ・ 月2回（1回あたり1時間程度）ケースミーティングの開催

すべての相談対応をスタッフ及び担当理事、地域コミュニティ課職員で共有し、各相談対応の経過確認を行い、継続事案にあっては以後の対応方針の決定、相談対応研修、業務改善等につなげている。

相談対応実績

1. 相談件数、人数、属性など

人数、属性など		H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26													計	総計
		総計	計	計	計	計	計	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月			
相談件数（件）		297	309	354	527	287	226	22	23	28	29	21	31	26	29	23	38	38	32	340	2,340	
開館日（日／月）		253	305	289	306	306	304	25	27	26	26	27	26	26	26	23	23	24	27	306	2,069	
件数平均（件／日）								0.9	0.9	1.1	1.1	0.8	1.2	1.0	1.1	1.0	1.7	1.6	1.2			
人数（人）		348	374	386	645	375	307	27	30	30		21	45	31	30	25	42	55	41	377	2,812	
対応時間月計（分）		5,558	6,345	7,434	10,476	7,664	5,412	355	370	606	723	296	1,155	402	651	785	725	732	793	7,593	50,482	
対応時間平均（分／日）								14.2	13.7	23.3	27.8	11.0	44.4	15.5	25.0	34.1	31.5	30.5	29.4			
対応時間平均（分／件）		18.7	20.5	21.0	19.9	26.7	22.5	16.1	16.1	21.6	24.9	14.1	37.5	15.5	22.4	34.1	19.1	19.3	24.8	22.1	151.4	
対面	件数（件）	235	235	267	322	187	152	17	11	13	19	7	24	16	16	17	26	23	24	213	1,611	
	対応時間月計（分）	4,858	5,789	6,572	8,463	6,481	4,585	280	240	490	630	160	1,030	275	535	745	585	615	710	6,295	43,043	
	対応時間平均（分／件）							16.5	12.8	37.7	33.1	22.9	42.9	17.2	33.4	43.8	22.5	26.7	29.6			
電話	件数（件）	58	67	81	195	87	72	5	12	15	10	13	7	9	11	5	10	14	8	119	679	
	対応時間月計（分）	605	501	656	1,944	1,008	812	75	130	116	93	135	125	122	106	35	130	112	83	1,262	6,788	
	対応時間平均（分／件）							15.0	10.8	7.7	9.3	10.4	17.9	13.6	9.6	7.0	13.0	8.0	10.4			
その他	件数（件）	4	7	6	9	13	2	0	0	0	0	1	0	1	2	1	2	1	0	8	49	
	対応時間月計（分）	95	55	206	39	175	15	0	0	0	0	1	0	5	10	5	10	5	0	36	621	
相談者属性	市民活動団体（件）	85	82	106	155	99	80	11	4	1	9	6	7	7	8	5	8	15	12	93	700	
	自治会・町内会（件）	13	14	25	18	27	18	1	1	0	7	4	2	3	2	2	2	1	6	31	146	
	生涯学習団体（件）	61	31	39	59	11	8	2	2	2	0	1	3	3	2	2	4	2	0	23	232	
	行政・外郭（件）	17	16	25	24	23	26	2	3	0	2	2	2	6	4	1	2	1	2	27	158	
	企業関連（件）	19	24	30	56	23	13	2	1	3	0	2	3	2	1	1	4	4	1	24	189	
	学校・学生（件）	9	7	9	19	11	2	0	0	0	0	0	5	2	0	0	1	3	0	11	68	
	マスコミ・議員（件）	2	2	2	7	2	2	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	2	19	
	個人（件）	65	88	81	127	62	51	2	6	11	7	3	7	2	8	10	15	9	10	90	564	
	その他（件）	26	45	33	62	30	25	2	6	3	4	2	2	1	4	2	2	3	1	32	253	
初来館	初来館者（人）	126	97	99	165	88	79	6	9	11	8	11	12	6	4	7	9	8	5	96	750	
	どこで知ったか	公共施設（人）	37	23	34	46	16	23	0	2	3	1	6	3	1	1	1	2	4	0	24	203
		ロコミ（人）	14	15	8	24	18	14	2	1	2	2	2	5	1	2	2	3	1	2	25	118
		SCホームページ（人）	11	15	24	29	21	19	3	3	4	4	3	1	0	0	1	2	3	1	25	144
		その他（人）	64	44	33	66	33	23	1	3	2	1	0	3	4	1	3	2	0	2	22	262

2. 相談内容の内訳

(1) 支援対象について

相談件数 (件)		97	99	94	163	73	57	8	13	7	7	11	11	7	8	5	8	10	5	100	683
対応時間(分)		1,217	1,185	1,003	1,857	855	727	95	165	75	100	180	130	75	91	50	85	110	65	1,221	8,065
対応時間平均(分/件)								11.9	15.0	10.7	12.2	16.4	11.8	10.7	11.4	10.0	10.6	11.0	13.0		
利用目的	貸室 (件)	77	69	62	116	59	37	5	10	6	5	10	7	4	6	2	5	7	4	71	491
	印刷室 (件)	9	16	27	19	5	10	1	1	0	2	1	2	1	0	2	2	3	0	15	101
	チラシ (件)	6	10	4	9	6	6	2	2	1	0	0	1	2	1	0	1	0	0	10	51
	ポスター (件)	2	0	1	4	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	2	9
	その他 (件)	3	4	0	5	3	4	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	2	21

(2)施設利用相談

「施設利用相談」(件)		72	25	46	60	13	11	2	2	3	2	1	2	4	0	0	4	6	3	29	256
対応時間(分)		866	270	599	643	136	170	25	10	36	30	15	20	50	0	0	35	55	20	296	2,980
対応時間平均(分/件)								12.5	5.0	12.0	15.0	15.0	10.0	12.5	0.0	0.0	8.8	9.2	6.7		
場の提供	貸室(件)	46	11	19	34	2	3	0	1	2	0	1	1	1	0	0	1	3	0	10	125
	フリースペース(件)	2	1	1	1	2	1	1	1	0	0	0	0	2	0	0	1	0	0	5	13
	ロッカー(件)	3	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2	8
	レターケース(件)	3	1	2	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	9
	共同事務室(件)	2	4	1	6	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	16
	展示スペース(件)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	1
	駐車場(件)	0	0	3	3	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	8
	備品(件)	2	0	2	3	1	0	1	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	3	11
	その他(件)	3	2	6	9	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	2	25
情報関係	PC(件)	2	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4
	インターネット(件)	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	コピー機・印刷機(件)	6	2	7	2	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	19
	チラシ・ポスター(件)	13	2	4	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	21
	サポートセンターHP(件)	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	2
	サポートセンター情報誌(件)	0	2	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
	その他(件)	2	3	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	9

(3) 市民活動相談

「市民活動相談」(件)		84	163	173	215	164	139	9	6	14	14	8	10	14	19	13	20	21	21	169	1,107	
対応時間(分)		2,500	4,083	5,267	5,527	5,708	3,835	200	165	415	363	86	340	267	545	550	530	557	658	4,676	31,596	
対応時間平均(分/件)								22.2	27.5	29.6	25.9	10.8	34.0	19.1	28.7	42.3	26.5	26.5	31.3			
ホップ	団体情報の問い合わせ(件)	21	47	41	56	46	53	2	1	8	0	5	5	3	0	2	6	2	6	40	304	
	ボランティア相談(件)	6	16	24	35	10	13	1	0	1	1	1	1	3	2	0	1	3	1	15	119	
	NPO基礎情報(件)	10	3	3	2	3	1	2	0	0	0	0	1	1	2	0	0	0	0	6	28	
	その他(件)	14	8	9	20	13	10	1	1	0	0	0	0	1	1	1	1	2	3	11	85	
ホップ計		51	74	77	113	72	77	6	2	9	1	6	7	8	5	3	8	7	10	72	536	
ステップ	任意団体の立ち上げ(件)	7	23	12	5	7	1	0	0	0	0	0	1	0	1	0	2	1	2	7	62	
	NPO法人の設立(件)	2	2	1	2	8	4	0	0	1	0	0	1	0	1	1	0	0	0	4	23	
ステップ計		9	25	13	7	15	5	0	0	1	0	0	2	0	2	1	2	1	2	11	85	
ジャンプ	団体運営	団体PR(件)	4	10	31	12	3	9	0	1	1	3	0	1	0	0	3	2	0	4	15	84
		イベント運営(件)	9	25	18	38	17	18	0	0	3	7	2	0	2	7	3	4	12	3	43	168
		助成金(件)	0	2	2	9	14	7	1	0	0	0	0	0	0	0	2	2	0	0	5	39
		会計(件)	0	3	2	0	1	2	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	2	10
		ボランティア募集(件)	0	2	1	1	0	3	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	2	9
		人材育成(件)	1	3	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	5
		その他(件)	7	16	27	18	32	13	1	1	0	2	0	0	1	4	1	2	1	0	13	126
	その他(件)	3	3	2	17	10	5	1	1	0	0	0	0	0	1	1	0	0	1	5	45	
ジャンプ計		24	64	83	95	77	57	3	4	4	13	2	1	6	12	9	10	13	9	86	486	

(4) 受益者からの相談

「受益者からの相談」(件)	21	5	7	20	6	8	0	2	2	3	0	0	0	2	1	3	1	1	15	82
対応時間(分)	520	40	110	365	130	310	0	30	40	90	0	0	0	15	5	45	10	20	255	1,730
対応時間平均(分/件)							0.0	15.0	20.0	30.0	0.0	0.0	0.0	7.5	0.0	15.0	10.0	20.0		

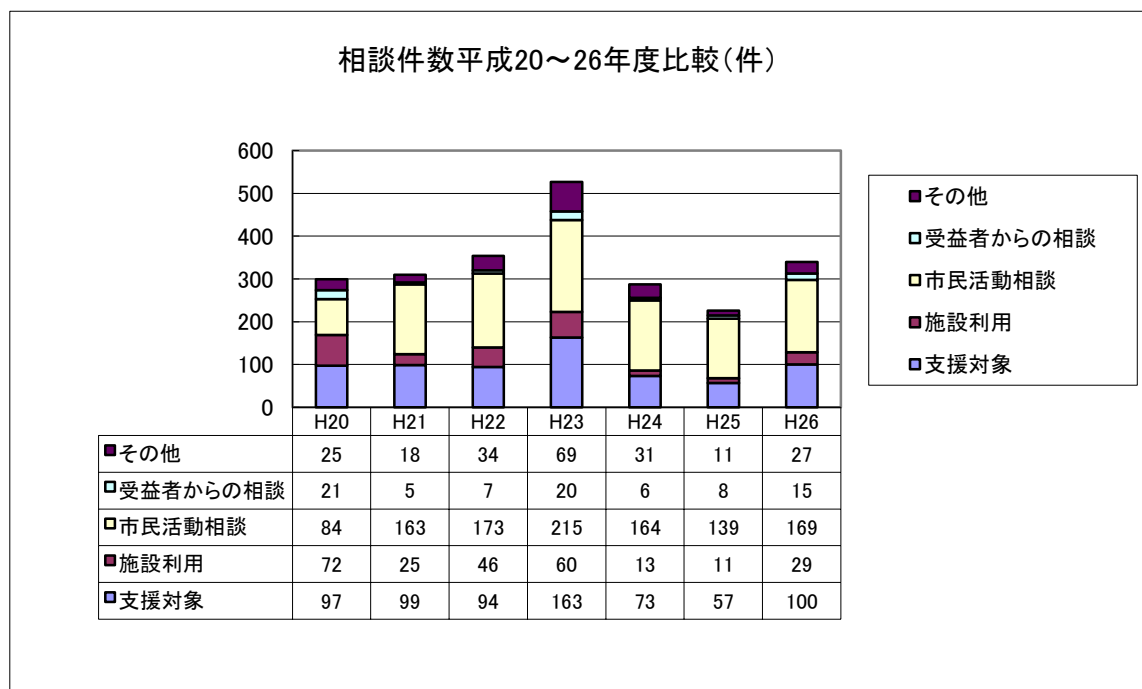
(5) その他

「その他」(件)	25	18	34	69	31	11	3	0	2	3	1	8	1	0	4	3	0	2	27	215
対応時間(分)	490	461	455	2,084	835	370	35	0	40	140	15	665	10	0	180	30	0	30	1,145	5,840
対応時間平均(分/件)							11.7	0.0	20.0	46.6	15.0	83.1	10.0	0.0	45.0	10.0	0.0	15.0		

相談件数

総 件 数 340 件（月平均 28.3 件）

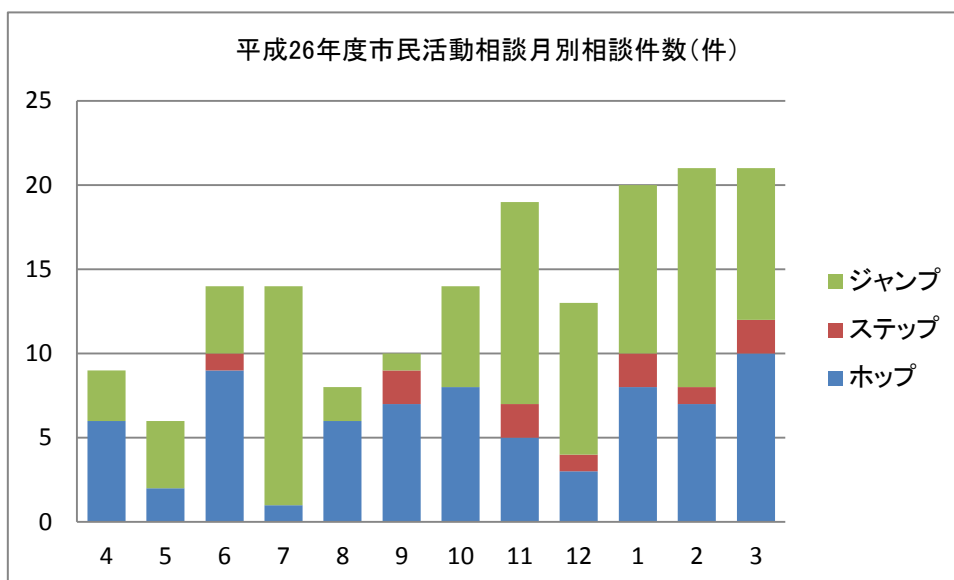
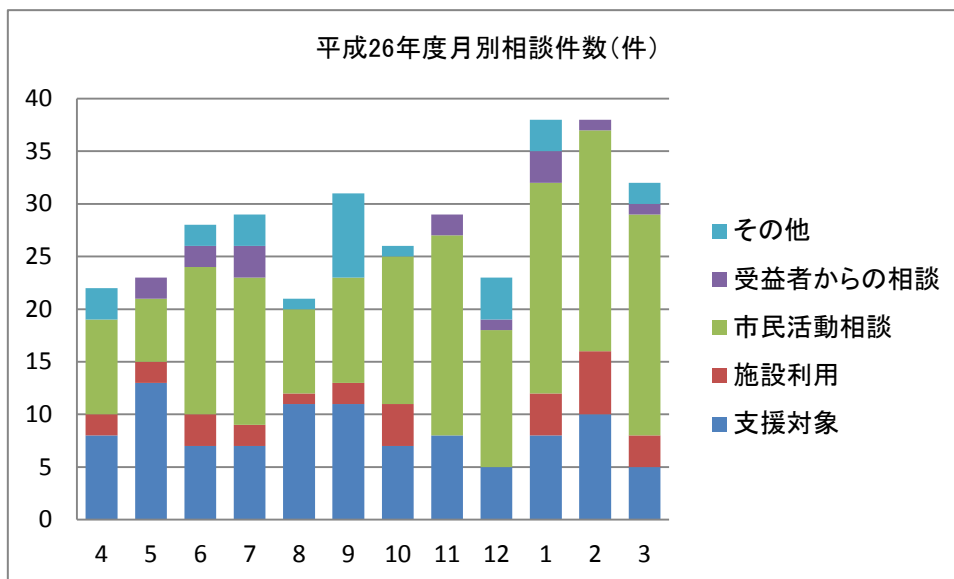
対応時間 7,593 分（月平均 632 分（10 時間 32 分）、1 件平均 22.3 分）



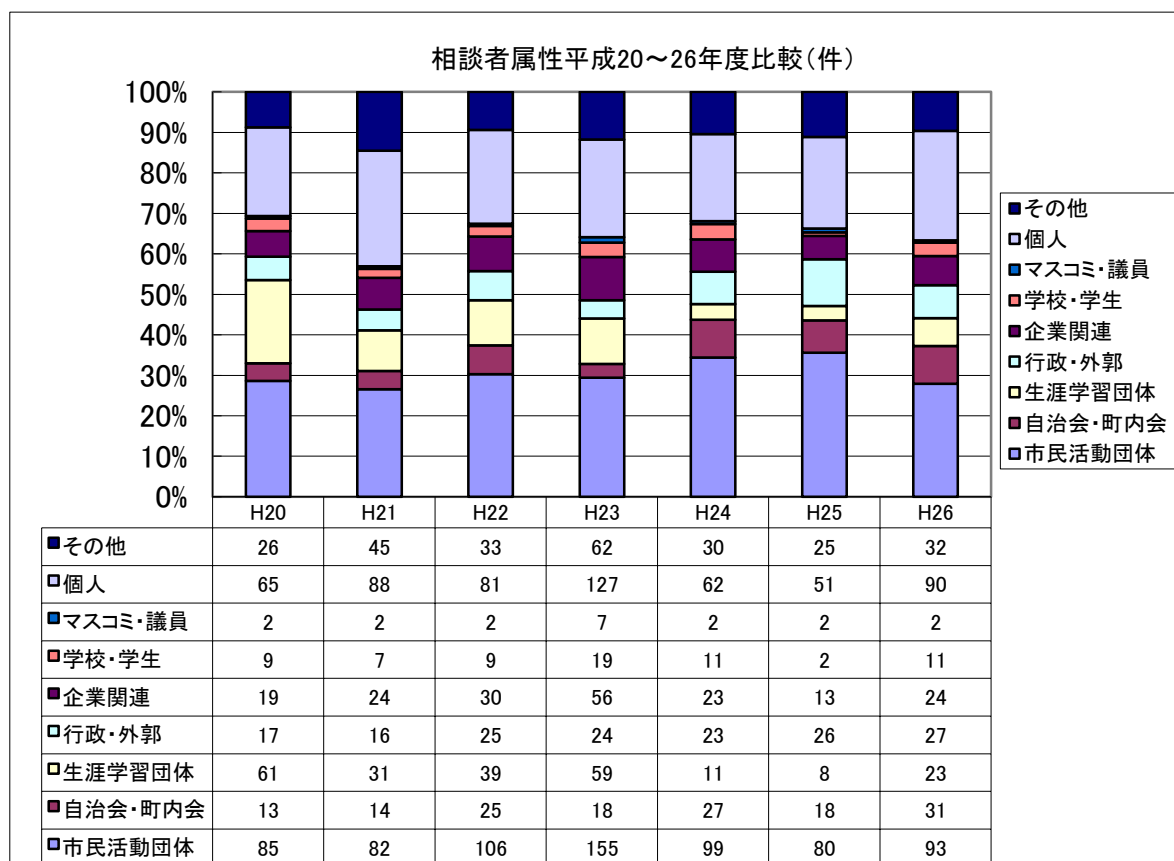
平成 26 年度の相談件数は、340 件だった。

平成 20～26 年度でみる年間の相談件数の平均は 334 件で、平成 26 年度はほぼ平均的な件数となった。改修工事が終了し、落ち着いて話ができたり、情報源となる資料が閲覧しやすい環境が整ったことが要因と考えられる。

相談の種類では、市民活動相談が最も多く、ついで支援対象、施設利用、受益者からの相談と続く傾向に変化はみられない。市民活動相談の内訳は次ページ以降で分析を行う。

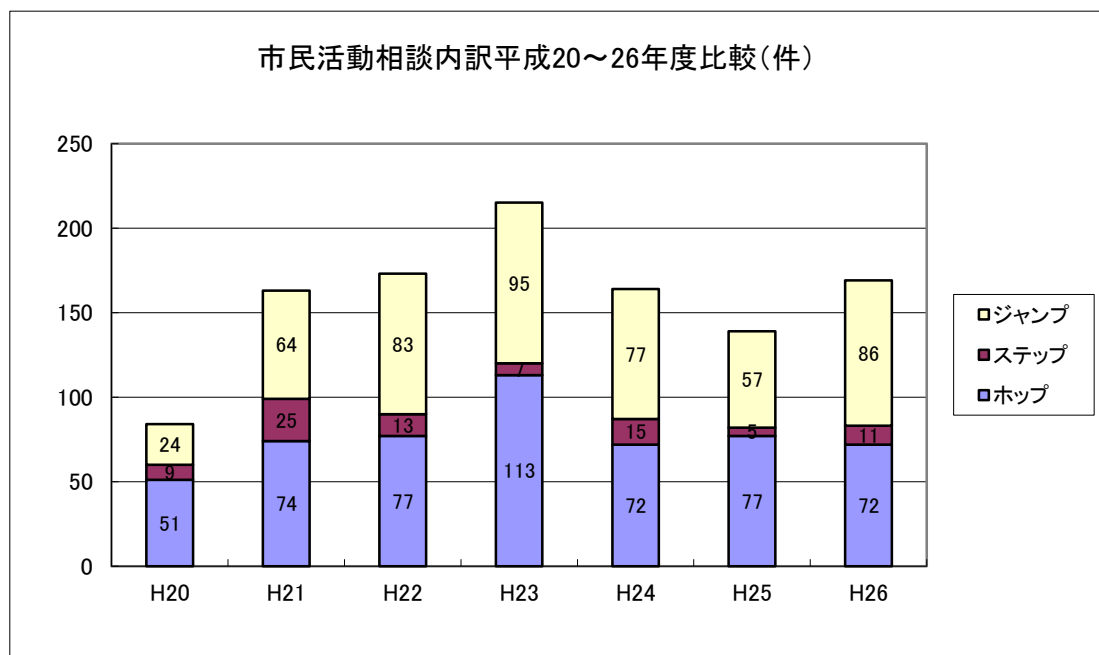


月別相談件数および市民活動相談件数をみると、活動が活発になる6・7月、事業実施が本格化する9～11月、新年度に向けた準備期間の1～3月に相談件数が多くなっている。



相談者の属性をみると、市民活動団体と個人が多く、ついで自治会・町内会、行政・外郭と続いている。昨年度までに比べ、個人からの相談の割合が増え、個人のスキルを活かして地域に役立ちたいという思いを持った方が以前より増えてきている。

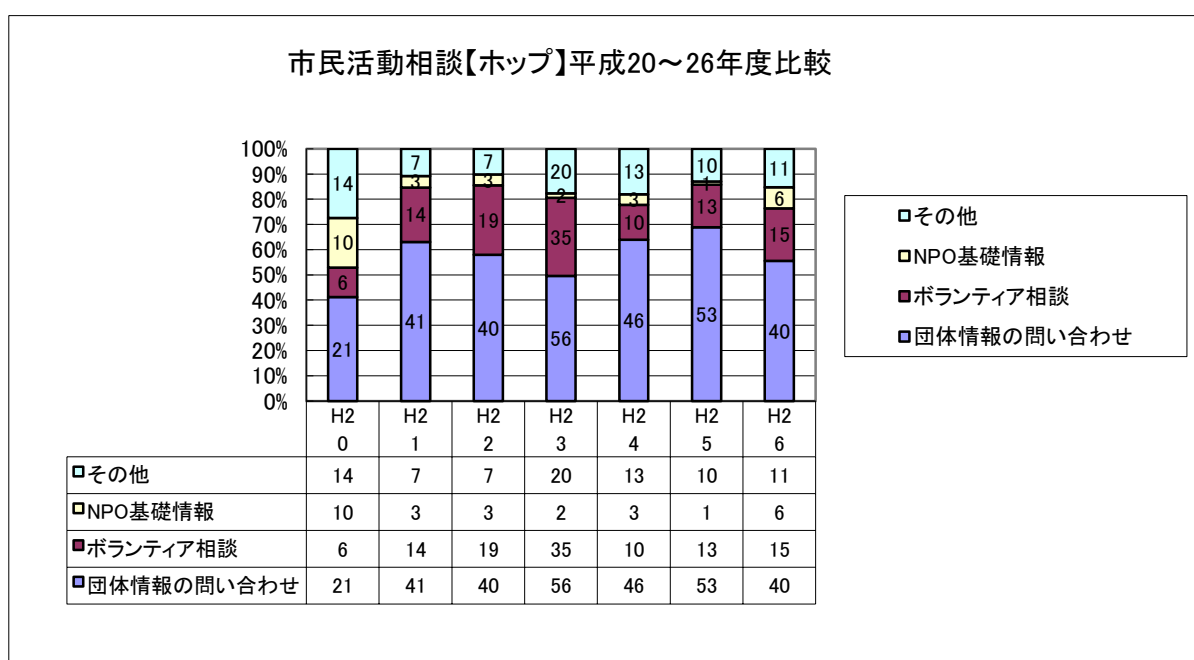
市民活動相談の内訳



市民活動相談の中で一番件数が多かったのは、イベント運営、団体P Rなど団体運営に関する相談のジャンプ段階の相談で、開館以来最も多かった市民活動団体の情報提供、ボランティア相談などのホップ段階の相談の件数を初めて上回った。

1) ホップ

…NPO基礎情報、ボランティア相談、市民活動団体の情報提供など

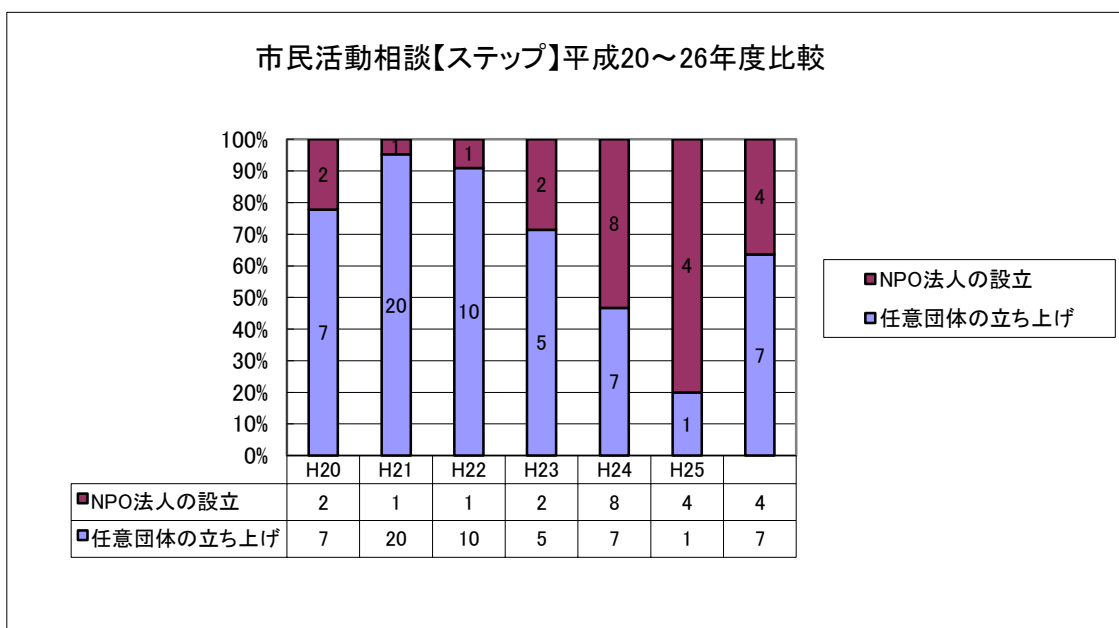


団体情報の問い合わせが最も多く、ついでボランティア相談が多かった。

団体情報の問い合わせは、活動先（主にサークル）を探している個人からや、イベントに出演してもらえぬ団体を探す自治会・町内会等に加え、行政や公的機関など、支援を必要としている方の対応をする窓口からの問い合わせも続いており、引き続き多賀城を中心に周辺市町も含めた情報収集が必要である。

2) ステップ

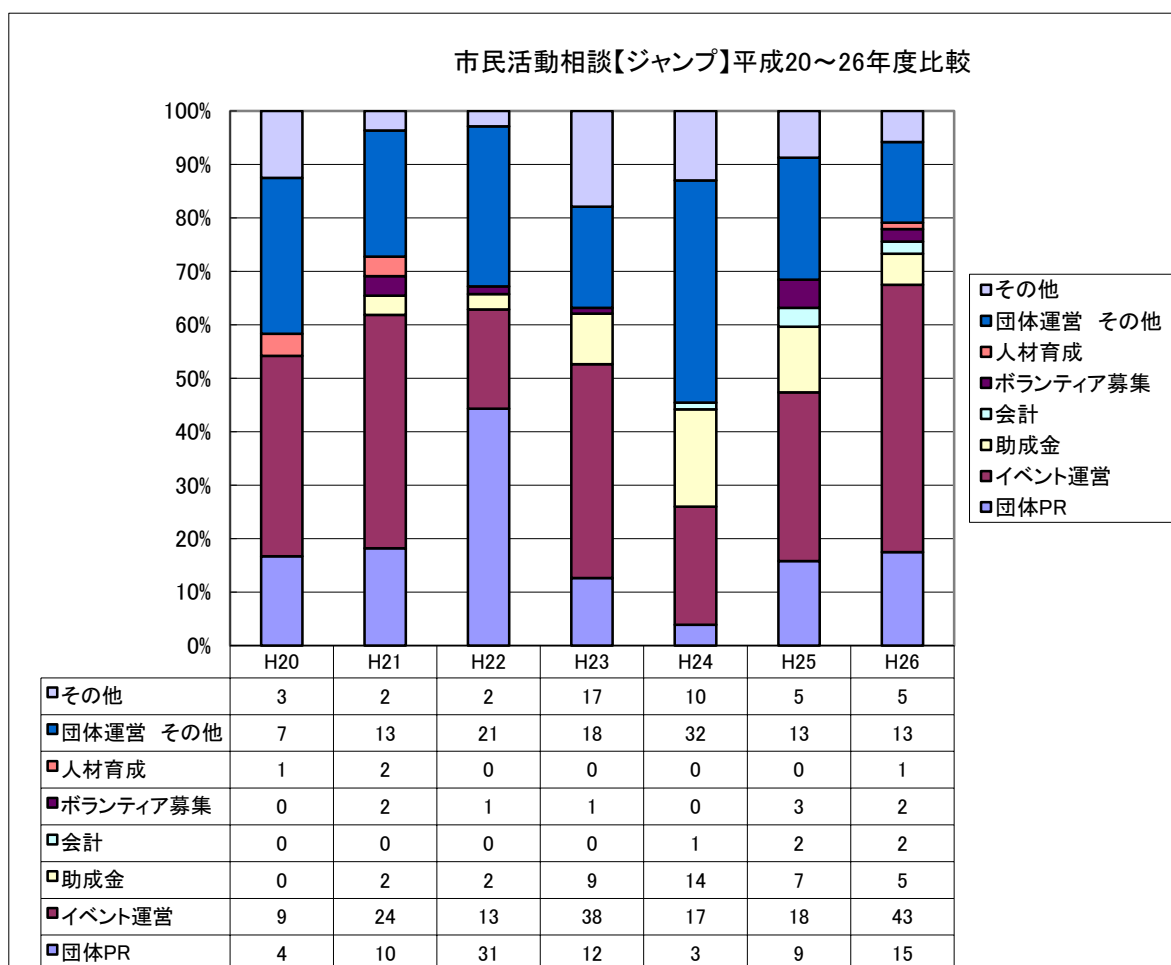
…任意団体立ち上げやNPO法人化に関する相談



平成 26 年度は新たに団体を立ち上げて活動したいという相談から、実際に活動を始めた団体が 2 件あった。年度内に実施に至らなかった活動についても、継続して相談対応を行う。

3) ジャンプ

…資金調達、広報など団体運営に関する相談



イベント運営に関するものが最も多く、次いで団体の運営、特に広報に関するものが多かった。

イベント運営に関する相談は、昨年度に引き続き被災した町内会を訪問しながら対応を行った。団体の広報に関しては、紙媒体に加え、SNSでの情報発信に対するアドバイスを行った。

今年度は自治活動支援事業のお役立ち専門相談や事務用ブース入居団体対象のインキュベート相談会とも連動し、事業から日常的な相談対応につなげ、資金調達や広報などの面で継続的に団体運営のサポートを行い、運営を改善する団体が出てきている。自治活動支援事業のプロジェクトを起こそうプロジェクトでは、参加者の中から2つの活動が実現に至った。

I-3-3 その他

1 団体情報ファイル数（単位：団体）

	二市 三町	県内	県外	合計	キーワード
市民活動支援	2	21	162	185	市民活動支援団体、助成活動
福祉	15	117	48	181	障がい者支援、高齢者支援、依存症、配食サービス、移送サービス、地域福祉
スポーツ・健康・医療	17	58	85	160	スポーツ振興、健康、医療、難病支援、カウンセリング、自殺予防
人権・ジェンダー	2	35	48	85	平和、ホームレス支援、貧困支援、労働問題、男女共同参画、DV、マイノリティ
子ども・社会教育	37	108	87	232	子育て、青少年健全育成、障がい児、不登校、ひきこもり、児童虐待、生涯教育、母子・父子家庭支援
環境	10	84	74	168	自然保護、環境保全、リサイクル、農業・林業・漁業・食育、動物・ペット、エネルギー
まちづくり	34	162	116	312	まちづくり、地域づくり、地域おこし、災害救援、地域安全・防災
国際交流・協力	8	36	57	101	国際交流、国際協力、在日外国人支援、フェアトレード
文化・芸術	37	84	43	164	文化振興、文学、音楽、劇団、アート、歴史、伝統文化、ミニコミ出版
シニア	1	17	3	21	セカンドライフ、団塊世代
その他	0	30	29	59	オンブズマン（行政監視）、行政提案、消費者保護、科学技術、職能開発、コミュニティビジネス、その他
自治会・町内会	9	0	0	9	自治会・町内会、老人クラブ、子ども会
合計	172	752	752	1676	

分野別団体情報ファイル経年変化（単位：団体）

	平成 20 年度	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度
市民活動支援	47	116	129	143	151	154	185
福祉	52	110	135	150	161	172	180
スポーツ・健康・医療	34	72	88	103	122	137	160
人権・ジェンダー	20	43	55	62	75	80	85
子ども・社会教育	57	109	128	155	197	212	232
環境	32	69	84	104	131	150	168
まちづくり	47	112	156	202	259	285	312
国際交流・協力	19	53	60	65	77	85	101
文化・芸術	22	61	81	115	152	164	164
シニア	8	13	16	17	17	19	21
その他	19	28	35	42	50	57	59
自治会・町内会			6	6	6	8	9

二市三町分野別団体情報ファイル経年変化（単位：団体）

	平成 20 年度	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度
市民活動支援	1	1	1	1	1	1	2
福祉	4	8	11	11	11	12	15
スポーツ・健康・医療	3	8	9	11	14	15	17
人権・ジェンダー	0	0	1	1	1	1	2
子ども・社会教育	6	12	13	20	28	31	37
環境	6	8	8	9	11	11	10
まちづくり	8	17	20	30	41	43	34
国際交流・協力	5	7	8	8	9	9	8
文化・芸術	1	6	11	22	35	38	37
シニア	0	0	1	1	1	1	1
その他	0	0	0	0	0	0	0
自治会・町内会			6	6	6	8	9

エリア別団体情報ファイル経年変化（前年度比）単位：団体

	平成 20 年度	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度
二市三町	34	67	89	120	158	170	(1%↑) 172
県内	177	411	475	567	644	691	(9%↑) 752
県外	127	308	409	477	596	662	(14%↑) 752
合計	338	786	973	1,164	1,398	1,523	(10%↑) 1,676

団体情報ファイル

団体情報ファイルには、団体ごとに団体紹介シート（※）、パンフレット、チラシ、定款（会則）、予算書、決算書、事業計画書、事業報告書などをファイリングしている。

このファイルは、既存の団体の運営・事業の参考となる情報源であり、新規団体立ち上げの先行事例としても紹介できるものである。また、受益者がサービスを受ける場合、市民がボランティアとして活動に参加する場合にも活用することができる。

今年度、ファイル数は 1,676 団体に増加した。主に NPO による東日本大震災に関する情報発信が活発に行われていること、東日本大震災の取り組みに関する報告会等で当センターと県外の団体のつながりが生まれたことが要因となり、ファイル数の増加につながった。

二市三町の団体情報ファイルは、前年度比で 1% 増加し 172 団体となった。「二市三町分野別団体情報ファイル経年変化」を見ると、震災復興関連の団体の立ち上げが落ち着いてきていることから大きく増加していない。

次年度以降は、文化交流拠点の設置、多賀城駅前の開発、災害公営住宅入居といった市内の状況の変化に伴い、新たな活動が生まれることが予想される。こうした活動を敏感に察知し情報収集するとともに、TSC からも活動に役立つ情報を提供できるようにしていく。

※団体紹介シート

市民活動団体の情報発信を支援する T S C 独自のツール。

団体の連絡先、設立経緯、目的、活動内容、アピールポイントなどを記入するもの。

提出された団体紹介シートは団体情報ファイルにファイリングされるとともに、T S C ホームページ上で公開している。

平成 26 年度末現在 91 団体の団体紹介シートが集まっている。

I-3-3-2 ホームページ・ブログ・ツイッターの運用

■ホームページ・ブログについて

		HP	ブログ
		訪問者数	訪問者数
		件	件
平成 20 年度			7,389
平成 21 年度		9,777	15,889
平成 22 年度		98,038	42,105
平成 23 年度		196,154	76,607
平成 24 年度		58,685	20,056
平成 25 年度		64,654	24,957
平成 26 年度	4 月	4,474	1,979
	5 月	5,308	2,885
	6 月	5,709	2,048
	7 月	6,059	2,059
	8 月	6,499	2,193
	9 月	7,233	2,017
	10 月	7,755	2,256
	11 月	6,863	2,093
	12 月	6,343	2,050
	1 月	6,363	1,801
	2 月	5,428	1,782
	3 月	5,803	1,586
平成 26 年度計		73,837	24,749

ホームページは平成 21 年 12 月 25 日に開設し、主に T S C の機能や事業を発信している。ブログは平成 20 年 7 月 19 日に開設し、主に市内外の市民活動に関わる取り組みやノウハウ、地域のイベント等が発信している。

平成 22、23 年度は東日本大震災に関する情報を発信したためホームページ・ブログともに訪問者数が急増した。

平成 26 年度については、ホームページの訪問者数は前年度より上昇しており、T S C の認知が向上したことが伺える。特に貸室を探している企業等による検索が要因と思われる。

ブログは、訪問者数の 80～90%がブックマークしている方であり、T S C で発信する情報を定期的に得たいと思っている読者へ有益な情報を提供できた。一方、前年度から訪問者が増加していないことから、新たな読者の獲得には至っていないことが分かる。また、年度末の訪問者数が減少している件は、事業告知・報告の記事が少なかった分、更新頻度も減少したことが大きな要因である。

次年度は、T S C 利用者以外の市民へのホームページ・ブログでの情報発信を強化し、T S C の認知を高めるとともに、より多くの市民が定期的に市民活動や地域に関わる情報を得られるようにしていきたい。

■ツイッターについて

	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度
フォロワー※1	751	1,880	1,984	1,965
フォロワー※2	422	1,092	1,371	1,562

※1: TSC がチェックするユーザー

※2: TSC をチェックするユーザー

平成 23 年 9 月 1 日に開設。ブログの更新と事業のお知らせをしている。

今年度もブログ更新や T S C 事業の告知を行い、フォロワーに対して広く T S C の情報を届けることが出来た。今後も継続してフォロワーを増やし、普段 T S C に来館しない方へも情報が行き渡るようにする。

事業名	I-3-3-3 共同事務室入居団体インキュベート相談
目的	事務用ブースの入居を通し、団体が独立した活動拠点を確保できるよう「自立・自律」に向けた団体運営も後押しする。
背景	インキュベートとは「ふ卵器」の意で、当センターの機能の 1 つである事務用ブースに入居している団体に対し、定期的に個別相談の機会を設けている。団体が入居している期間、活動や課題をヒアリングし、情報提供から継続的かつ安定した団体運営ができるようノウハウ提供を行い、団体が独立した活動拠点を確保できるよう「自立・自律」に向けた団体運営も後押しする。
成果目標	・団体内の課題を顕在化させ、気づきを促すことで、課題解決に向けて団体が行動を起こすこと。 ・団体とスタッフとの信頼関係を構築し、相談会以外においても、互いが気軽に声をかけできる状態をつくること。
対象	当センター事務用ブース入居団体
実施概況 ・タイトル ・日時 ・会場 ・目的＊個別にある場合 ・テーマ＊必要に応じて ・対象＊個別にある場合 ・内容 ・講師 ・参加費 ・定員／参加人数	入居 6 ヶ月ごとに、団体の代表者や事務局を担うスタッフと当センタースタッフとの個別面談を実施する。1 団体あたり約 1 時間程度、活動や運営の現状の把握、課題の整理、解決に向けた情報提供やアドバイスを行った。相談内容は、広報の仕方、組織内の人材育成や合意形成、資金調達、会員・メンバーの増やし方、事業展開の方法など、団体運営に関する内容が多かった。 ①退去報告会 日 時：平成 26 年 6 月 10 日（火）14:30～15:35 会 場：多賀城市市民活動サポートセンター 3 階 302 会議室 対 象：塩釜子ども劇場（平成 23 年 6 月入居／3 年目満期退去） 内 容：3 年間事務用ブースに入居した成果・効果、退去後の活動について伺った。 ②インキュベート相談会 日 時：平成 26 年 10 月 21 日（火）15:00～16:00 会 場：多賀城市市民活動サポートセンター 2 階 201 会議室 対 象：ココロのびのび★プラネット（平成 25 年 4 月入居／2 年目） 内 容：団体活動や組織運営の成果や課題について伺い、スタッフからアドバイス、情報提供を行った。 ③インキュベート相談会 日 時：平成 26 年 12 月 6 日（土）15:05～16:20 会 場：多賀城市市民活動サポートセンター 3 階 302 会議室 対 象：多賀城フェスティバル実行委員会（平成 25 年 6 月入居／2 年目） 内 容：団体活動や組織運営の成果や課題について伺い、スタッフからアドバイス、情報提供を行った。

アンケート集計結果	アンケートは実施せず
成果	・課題の顕在化 団体の活動経過や事業の進捗状況をヒアリングすることで、団体が抱える課題と要因を顕在化し、当センターから様々な解決策を提案することで、団体運営上の課題を解決するための行動を起こすことができた。 ・信頼関係の構築 相談会を通して、団体とスタッフとの信頼関係を構築し、相談会以外においても、互いが気軽に声かけできる関係性ができた。日常的に団体運営に関する相談が寄せられるようになり、団体運営上の課題解決につながった。
次年度に向けた課題	●入居団体の減少 平成 26 年 6 月から、ブース入居団体は 8 ブース中 2 団体と入居団体数が過半数に満たない。例え申請があっても、現在の審査基準を満たす団体が少ないことから、共同事務室が長期間デッドスペースとなっている。 人口 6 万の多賀城市と人口 107 万の仙台市とでは、NPO・市民活動団体の活動状況が大きく異なる。まず、NPO法人数を比較すると、多賀城市の 4 法人に対し、仙台市は 413 法人となるので、そもそもの活動母数が大きく異なるため、仙台市市民活動サポートセンターと同様の趣旨の元、ブースを運営していくには限界が生じている。 ●事務用ブースの改善 上記の件から、平成 26 年度末から来年度にかけ、以下のことを目的に事務用ブースの改善を図る。 ・事務用ブースを、多賀城で活動する団体に適した運用・仕様に改正し、独自の運営方法を見出すこと。 ・改正後、入居団体の利便性を向上させ、組織力・運営力を育み、「自立・自律」に向けた団体運営を後押しすること。 なお、すでに相談会では入居団体からも現事務用ブースについて意見や提案を得ることができた。

* 添付資料

□チラシ

□当日配布資料

□アンケート集計結果

事業名	I-3-3-4 出前さぼせん
目的	スタッフが地域イベントに出向き、当センターを利用したことのない市民を対象に、当センターの概要や機能を伝えることで、市民活動をより身近に感じてもらい、市民活動への理解と参加、施設利用の促進につなげる。
背景	当センターのサービスは、来館者を対象としたものが大半であるが、地域には市民活動情報を必要としていたり、団体が提供するサービスを必要としている潜在的な利用者がいる。本事業では、スタッフが地域へ足を運び、地域状況に合わせた展開を図ることで、市民活動の発展と理解を促進する。
成果目標	当センター利用団体の開催イベント参加者、当センターの新規来館者が増える。
対象	・これまで市民活動に関わったことのない人 ・これまで当センターに来たことがない人
実施概況 ・タイトル ・日時 ・会場 ・目的＊個別にある場合 ・テーマ＊必要に応じて ・対象＊個別にある場合 ・内容 ・講師 ・参加費 ・定員／参加人数	●さぼせん広場 in「みんなのマルシェ 2014」 日 時：平成 26 年 6 月 21 日（土）10:00～16:00 会 場：多賀城駅前半円公園 目 的： ・市民活動団体情報、地域イベント情報を提供する ・当センターの概要や機能を周知し、認知度を高めて利用促進につなげる 対 象： ・20～40 代の市民（マルシェの主な参加者層、子育て世代） ・親子連れ（ワークショップ） 内 容： ・市民活動団体の情報提供 「みんなのマルシェ」の参加者層である 20～40 代の市民の中でも、特に子育て層をターゲットとし、子育てや文化・芸術に関するイベントや団体の情報を提供した（チラシ、パンフなどを持参）。 ・当センターの P R 機能紹介（特にチラシラック、ホームページ・ブログ・twitter など web による情報発信） 当センター発行物（パンフレット、tag、IPP0、たねまく）の配付と説明を行った。 ・ワークショップ「ドット絵」 小さな紙に絵を描いてもらい、台紙に貼ってもらう。最終的に絵が出てくる。 ※当センターブースに足を止めてもらう手段として、主に子どもたちを対象として実施（大人も可）。子どもが作業している間に、親に説明や P R をする。 参加費：無料 定 員：制限なし／参加人数：約 120 人（ワークショップ参加人数から算出）

	来場者がチラシを持っていった枚数：子育て支援情報：77 枚 当センターパンフレット：33 枚 たねまく：10 部 tag：8 枚 IPPO：7 部
アンケート集計結果	アンケートは実施せず
成果	・ワークショップを実施したことで、気軽に立ち寄る方が多く、多くの来場者に当センターのPRや、市民活動団体の情報を提供することができた。 ・「子育て支援情報」とテーマを分かりやすく掲示したことで、ターゲットとしている層に市民活動団体の情報を届けることができた。 ・マルシェに出店していた「ココロのびのび★プラネット」「森のようちえん虹の森」の活動について聞かれた際、団体に直接つなぐことができ、他の出展団体との相乗効果を生むことができた。
次年度に向けた課題	・当センターのPRはできたが、実際の来館につなげることが難しい。市民活動以外にも、気軽に地域イベントの情報収集ができることを伝えるなど、来館につなげる工夫が必要である。 ・より当センターの周知を図るため、他の市内イベントへの出前も検討する。 ・より一層活動に関心を持ってもらうため、子育てに関する活動の中でも、細かいテーマや対象年齢別にチラシの設置を行うなどの工夫が必要である。

* 添付資料

□チラシ

□当日配布資料

□アンケート集計結果



TSCブース



子育てに関するチラシを揃えました

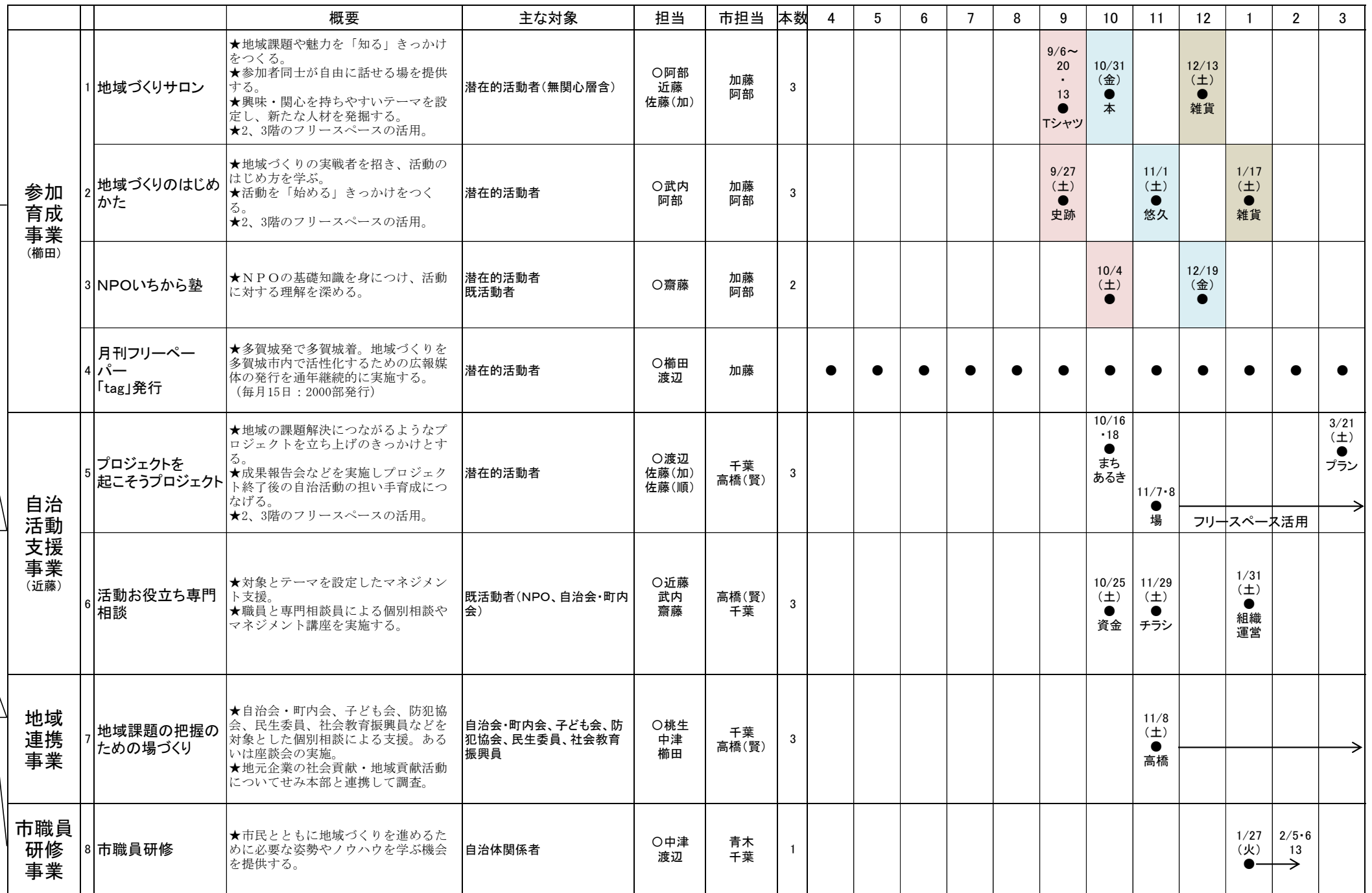


ワークショップの様子



小さなお子さんも参加

4 事業実施状況



18 (←tag発行回数を除く事業本数)

[illegible]

事業名	I-4-1-1 参加・育成事業 地域づくりサロン
目的	これまで市民活動に関わる機会がなかった市民に向けて、市民活動への多種多様な関わり方を示すことで、興味関心や得意分野という視点から市民活動に関わる機会を提供する。
背景	多賀城市民において、困りごとが生じた際、行政への依存や市外のサービスを利用する機会が多い。その要因として、①市内の市民活動団体やその担い手となる人材が少ないこと、②市民活動に接する機会や関心がないこと、③たとえ関心があっても市民活動との関わり方が分からないことが挙げられる。市民が地域づくりに主体的に関わっていくためには、多くの市民が市民活動に触れる機会を提供し、市民活動への多種多様な関わり方を示すことで、市民活動を知り、関心を持ってもらうことが求められる。そのため本事業では、「NPO」「市民活動」というキーワードに関心を持たない人に対して、「デザインTシャツ」「本」「雑貨」など、市民が興味関心を抱きやすいものをテーマとして掲げることで参加を促す。そして、テーマに紐付いている「NPO」「市民活動」についての気付きを促し、自分の関心ごとからまちをよりよく変えていくことができること、それを市民自らの手で出来るという視点を得てもらうことで、市民活動に関心を持つ人を増やしていく。
成果目標	- 市民活動に関心のない・市民活動に関わったことのない参加者の割合が半数を占めること。 - 参加者がテーマに紐付く「市民活動」を知ること、市民自らが関われる活動であることを知ること。(いずれもアンケートを指標とする)
対象	- 今まで市民活動に関わったことのない方 - 市民活動に関心を持っていない方
実施概況	<全 3 回> ①支援につながるデザインTシャツ展 日 時：平成 26 年 9 月 6 日（土）～20 日（土） 会 場：多賀城市市民活動サポートセンター 2 階ギャラリー テーマ：デザインTシャツ 対 象：デザインTシャツに関心がある方 GIFTHOPE の取り組みに関心のある方 内 容：(市民活動を応援する) デザインTシャツの展示 協力団体：NPO 法人GIFTHOPE 「デザインで社会を変える」ことを目指し、市民活動団体をPR・応援するTシャツを制作している。デザインは一般公募し、売上の一部をNPOに寄付している。 参加費：無 料 ●スペシャルトークイベント「私がTシャツをつくる理由」 日 時：平成 26 年 9 月 13 日（土）13:00～14:30

会 場：多賀城市市民活動サポートセンター 2 階ギャラリー
 ゲスト：館内亨太さん（NPO 法人 GIFTHOPE 代表理事）
 内 容：NPO 法人 GIFTHOPE の活動紹介
 デザインTシャツの紹介
 市民活動への関わり方
 参加費：500 円
 定 員：20 名／参加人数：4 名

②「読む」だけじゃない!?見つかる本の楽しみ方

日 時：平成 26 年 10 月 31 日（金）19:00～21:00
 会 場：多賀城市市民活動サポートセンター 2 階ギャラリー
 テーマ：本
 対 象：本が好きな人
 本を楽しむ方法を知りたい人
 本を「読みつなぐ」活動に関心がある人
 内 容：絵本バンクの活動紹介
 本をツールに活動する市民活動の紹介
 ゲスト：北野 央さん（絵本バンク 代表）
 参加費：500 円
 定 員：15 名／参加人数：17 名

■本の交流会

※講座終了後も参加者同士が継続的につながれる場を持つことで、新たな
 コミュニティと活動が生まれることを期待し、月に一度交流会を実施。
 参加者からは、本を活用した企画を実施したいとの声が挙がっている。
 会場は、全て当センター2 階ギャラリーで行っている。

- 第 1 回 日 時：平成 26 年 11 月 28 日（金）19：00～21：00
 参加者：8 名
- 第 2 回 日 時：平成 27 年 1 月 23 日（金）19：00～21：00
 参加者：7 名
- 第 3 回 日 時：平成 27 年 2 月 19 日（木）19：00～21：00
 参加者：4 名
- 第 4 回 日 時：平成 27 年 3 月 19 日（木）19：00～21：00
 参加者：9 名

③たがさぼの X' mas 雑貨市

日 時：平成 26 年 12 月 13 日（土）10:00～15:00
 会 場：多賀城市市民活動サポートセンター3 階
 大会議室、301、302 会議室、3 階交流サロン
 テーマ：雑貨
 対 象：雑貨に関心のある人

	内 容：市民活動団体が製作する雑貨の販売会、ワークショップの開催 出店団体：（☆印は、当センターが委託販売を行った団体の商品） ●障がい者支援団体 ☆さくらんぼ（社会福祉法人嶋福祉会）／多賀城 リボンヌ手芸部 Miyagi／仙台 コッペ（NPO法人麦の会）／仙台 アトリエ・ソキウス（NPO法人ソキウスせんだい）／仙台 メルヴェイユ仙台（社会福祉法人鹿島育成園）／仙台 ☆一般社団法人盲導犬総合支援センター／仙台 ☆エイブルアート・カンパニー（一般財団法人たんぼぼの家）／奈良 ●国際協力団体 本格遠赤焙煎珈琲まめ福／多賀城 NPO法人アマニ・ヤ・アフリカ／仙台 シャプラニール仙台・ボンドウの会／仙台 ☆アフリーク・ソレイユ／仙台 ●動物愛護団体 わんにゃん仲良しクラブ／多賀城 ●子育て支援団体 多賀城プレーパークの会／多賀城 ☆NPO法人ピースジャム／気仙沼 ●復興支援団体 ☆ama project（有限会社コンテナおおあみ）／登米 ☆さざほざ（有限会社コンテナおおあみ）／登米 参加費：無 料 定 員：制限なし／参加人数：のべ 260 人																		
アンケート集計結果	全 3 回＋Tシャツ展/113 件 ①年 代 <table><tr><td>～10 代</td><td>20 代</td><td>30 代</td><td>40 代</td><td>50 代</td><td>60 代</td><td>70 代</td></tr><tr><td>11 名</td><td>17 名</td><td>29 名</td><td>29 名</td><td>15 名</td><td>7 名</td><td>4 名</td></tr></table> ・ターゲットとしていた現役層（20 代～50 代）の参加は 90 名で、全体の 80% を占めた。ターゲットの関心に合わせたテーマに設定したことが、実際の参加につながった。 ②性 別 <table><tr><td>男 性</td><td>女 性</td></tr><tr><td>25 名</td><td>86 名</td></tr></table> ・女性の参加者が多く、全体の 77% となった。雑貨市は女性をターゲットとしていたため、このような結果となった。中でも雑貨市では、子育て中の女性の来場が多かった。	～10 代	20 代	30 代	40 代	50 代	60 代	70 代	11 名	17 名	29 名	29 名	15 名	7 名	4 名	男 性	女 性	25 名	86 名
～10 代	20 代	30 代	40 代	50 代	60 代	70 代													
11 名	17 名	29 名	29 名	15 名	7 名	4 名													
男 性	女 性																		
25 名	86 名																		

	③住 所 <table><tr><td>多賀城</td><td>仙 台</td><td>塩 釜</td><td>七ヶ浜</td><td>利 府</td><td>名 取</td><td>その他</td></tr><tr><td>68 名</td><td>22 名</td><td>12 名</td><td>4 名</td><td>1 名</td><td>1 名</td><td>4 名</td></tr></table> ・多賀城市在住の来場者が 60%を占めた。本事業のターゲットである多賀城市民を中心に広報をしたことが、多くの来場につながった。 ④ボランティア・NPO活動への参加経験の有無 ※「あり」には、寄付やイベントへの参加を含む <table><tr><td>あ り</td><td>な し</td></tr><tr><td>68 名</td><td>46 名</td></tr></table>	多賀城	仙 台	塩 釜	七ヶ浜	利 府	名 取	その他	68 名	22 名	12 名	4 名	1 名	1 名	4 名	あ り	な し	68 名	46 名
多賀城	仙 台	塩 釜	七ヶ浜	利 府	名 取	その他													
68 名	22 名	12 名	4 名	1 名	1 名	4 名													
あ り	な し																		
68 名	46 名																		
成果	・市民活動に関心のない・市民活動に関わったことのない方の参加について 上記アンケート結果から、来場者の 40%がボランティア・NPO活動へ参加経験のない方だった。半数には満たなかったものの、市民活動に関わったことのない方の来場があった。 ・イベントテーマから、市民活動に目を向け、関わる機会を提供できた 市民活動に関わる機会の少ない方を対象とした本事業では、市民活動に関する企画であることを前面に出さず、「デザインTシャツ」「本」「雑貨」など、対象者が興味関心を持ちやすいテーマを前面に打ち出した広報を行ったことで、対象者の気軽な参加につながった。また、テーマに紐付く取組みを伝え、市民活動との関わり方を示したことで、「団体の活動を知る」「商品を買って団体を支援する」「寄付をする」「活動に足を運ぶ」など、多様な形で活動に関わる人を増やすことができた。 X' mas 雑貨市では、昨年実施の雑貨市からのリピーターが生まれた。団体と市民が出会える場として、認識が深まってきた様子が見受けられる。 ・新たな活動の芽が生まれた 参加者がゲストの所属する団体でボランティアを始めたり、講座後、参加者が集まり市民対象のイベントを計画するなど、市民活動を始める人や新たな活動の芽が生まれた。また、すでに地域活動に関わっていた参加者からも、ゲストの活動を参考にした活動を計画しているとの声があり、新たな取組みを生むきっかけを提供できた。																		
次年度に向けた課題	・他事業との連携について 本事業は、市民活動に関わる一歩目と位置付けており、他事業との連携を図ることで、段階を追って活動者を増やしていくことを見込んでいたが、各講座に単発で参加する方が多く、連携という形では活動者を増やすことができなかった。次年度以降、連携の仕方を再検討する必要がある。 ・大規模イベント時における趣旨の周知を強化 X' mas 雑貨市は、他の企画に比べて規模が大きいいため、参加者全員に企画趣旨が正確に伝わっていない可能性がある。単なる雑貨の販売会ではなく、団体の活動を知ることや商品を購入することで市民活動団体の支援につながる																		

	ること、イベントに参加していること自体も、市民活動に関わっているという認識を持ってもらうためにも、趣旨を正確に周知する工夫が必要がある。 ・テーマの再検討 テーマによって参加者数に差があった。対象者に合うテーマを検討する必要がある。
--	---

* 添付資料

■チラシ

■当日配布資料

■アンケート集計結果

①支援につながるデザインTシャツ展 & スペシャルトークイベント「私がTシャツをつくる理由」



デザインTシャツ展の様子



トークイベントの様子

②「読む」だけじゃない!? 見つかる本の楽しみ方



絵本バンクの北野代表



自己紹介の様子

③たがさぼのX'mas 雑貨市



市民活動団体による販売ブース



ワークショップブースの様子

事業名	I-4-1-2 参加・育成事業 地域づくりのはじめかた
目的	・活動をはじめるきっかけを提供し地域づくりを担う人材を発掘・育成する。 ・地域づくり実践者の現場で活動の今を知ることで“活動のはじめ方”の手がかりを学ぶ。
背景	平成 25 年度の『はじめる広場トークタイム』では、市民活動やNPOへの理解と興味を引き出すため、既活動者による実体験のトークで参加者を刺激し活動を促す試みを行った。しかし、参加者が新たな活動者となる事例は少なく、既活動者同士のつながりの場の提供という面が強かった。 また、ゲストトークという内容は他事業でも実施しており、各事業間で内容と目的の差別化を図れなかった。 更に、多賀城市が実施した『平成 25 年度実施のまちづくりアンケート』によると、市民活動・地域活動について「普通」「どちらかといえば満足」「今のままでよい」の回答が多かったことから関心が低い傾向が見られ、平成 25 年度にTSCで実施した利用者アンケートの結果でもNPOについては全年代を通して興味関心が低いという結果が出ている。 本事業では、ゲストトークという形式から一歩踏み込み、活動を実際に体験することを計画した。これにより、他事業との差別化を計ると共に、比較的緩やかなステップアップの場として“現場を知る”というステージへの誘導を図る。 また、実施に際しては参加しやすい内容・テーマで参加へのハードルを下げるが、実施の内容ではNPOや市民活動につながる原点となる“課題発見の視点”も組み込み、市民活動・NPO、地域の活動という考え方を投げかける。
成果目標	・参加者の 50%以上をTSC主催講座・イベントへの新規参加者とする。 ・講座終了後NPOやボランティアへの継続実践者を毎回 1 名以上輩出する。
対象	・NPOやボランティアに参加したいと思っている方。 ・NPOや地域活動の現場を知りたい・見てみたいと思っている方。
実施概況 ・タイトル ・日時 ・会場 ・テーマ ・内容 ・講師 ・参加費 ・定員／参加人数	<全 3 回> ①多賀城まち知るハイキング 日 時：平成 26 年 9 月 27 日（土）13:00～16:30 場 所：多賀城政庁跡付近（ハイキング）、タガの柵（ゲストトーク） テーマ：歴史・まちづくり 内 容：まち歩きと、ゲストトーク（活動に参加した動機、続けている想いなどを伺う）を実施し、多賀城のことと地域で活躍する団体のことを知る。 ①多賀城碑や政庁跡を中心としたまち歩き ②ゲストトーク ゲスト：・柴田 十一夫さん（史都多賀城観光ボランティアガイド） ・松村 正子さん（NPOゲートシティ多賀城） 参加費：500 円

参加者：定員 15 名 / 参加 13 名

<参加者情報>

①性 別

男 性	女 性	合 計
5 名	8 名	13 名

②年 代

40 代	50 代	60 代	70 代
2 名	6 名	2 名	3 名

③住 所

多賀城	仙台	涌谷	大和
3 名	8 名	1 名	1 名

④当センター主催のイベント・講座への参加は初めてか？

はい	いいえ	回答なし
12 名	0 名	1 名

②『悠久の詩都の灯』ライト取付け体験

日 時：平成 26 年 11 月 1 日（土） 9:00～13:00

場 所：JR 仙石線多賀城駅南口 半円広場（体験会）

多賀城市市民活動サポートセンター 302 会議室（交流会）

テーマ：まちづくり、ボランティア体験

内 容：多賀城を舞台としたボランティアの体験会を実施する。その後『悠久の詩都の灯』主催団体の説明や、参加者同士の交流を深める時間を設ける。これらを通しボランティアから市民活動に携わる機会の創成と、多賀城への興味・関心を促す。

①ライト取付け体験（120 分）

②参加者交流会（60 分）

協力団体：T・A・P 多賀城

参加費：無 料

参加者：5 名

<参加者情報>

①性 別

男 性	女 性	合 計
4 名	1 名	5 名

②年 代

10 代	20 代	30 代
1 名	3 名	1 名

③住 所

多賀城	塩釜	仙台
1 名	1 名	3 名

④当センター主催のイベント・講座への参加は初めてか？

はい	いいえ	回答なし
4 名	1 名	0 名

③トークイベント『子どもも親もハッピーになる支援のお話』

日 時：平成 27 年 1 月 17 日（土） 13:30～15:30

場 所：多賀城市市民活動サポートセンター 101 会議室

テーマ：子育て支援

内 容：ゲストの市民活動経験を聞き、実際の活動についてイメージをつかむ。

またゲストとのフリートークを通じて、活動に対する疑問点や不安に感じていることを質問し知恵を借りる。

①団体紹介のゲストトーク（30 分）

②活動体感交流会（30 分）

③参加者・ゲストのフリートーク（60 分）

ゲスト：佐藤 賢さん（NPO 法人ピースジャム 代表理事）

参加費：500 円

参加者：定員 15 名 / 参加 7 名

<参加者情報>

①性 別

男 性	女 性	合 計
1 名	6 名	7 名

②年 代

30 代	40 代
4 名	3 名

	③住 所 <table><tr><td>多賀城</td><td>塩釜</td><td>仙台</td></tr><tr><td>4 名</td><td>1 名</td><td>2 名</td></tr></table> ④当センター主催のイベント・講座への参加は初めてか？ <table><tr><td>はい</td><td>いいえ</td><td>回答なし</td></tr><tr><td>0 名</td><td>7 名</td><td>0 名</td></tr></table>	多賀城	塩釜	仙台	4 名	1 名	2 名	はい	いいえ	回答なし	0 名	7 名	0 名																								
多賀城	塩釜	仙台																																			
4 名	1 名	2 名																																			
はい	いいえ	回答なし																																			
0 名	7 名	0 名																																			
アンケート集計結果	【参加者情報総計】 ①性 別 <table><tr><td>男 性</td><td>女 性</td><td>合 計</td></tr><tr><td>10 名</td><td>15 名</td><td>25 名</td></tr></table> ②年 代 <table><tr><td>10 代</td><td>20 代</td><td>30 代</td><td>40 代</td></tr><tr><td>1 名</td><td>3 名</td><td>5 名</td><td>5 名</td></tr></table> <table><tr><td>50 代</td><td>60 代</td><td>70 代</td></tr><tr><td>6 名</td><td>2 名</td><td>3 名</td></tr></table> ③住 所 <table><tr><td>多賀城</td><td>塩釜</td><td>仙台</td></tr><tr><td>8 名</td><td>2 名</td><td>13 名</td></tr></table> <table><tr><td>涌谷</td><td>大和</td></tr><tr><td>1 名</td><td>1 名</td></tr></table> ④当センター主催のイベント・講座への参加は初めてか？ <table><tr><td>はい</td><td>いいえ</td><td>回答なし</td></tr><tr><td>16 名</td><td>8 名</td><td>1 名</td></tr></table>	男 性	女 性	合 計	10 名	15 名	25 名	10 代	20 代	30 代	40 代	1 名	3 名	5 名	5 名	50 代	60 代	70 代	6 名	2 名	3 名	多賀城	塩釜	仙台	8 名	2 名	13 名	涌谷	大和	1 名	1 名	はい	いいえ	回答なし	16 名	8 名	1 名
男 性	女 性	合 計																																			
10 名	15 名	25 名																																			
10 代	20 代	30 代	40 代																																		
1 名	3 名	5 名	5 名																																		
50 代	60 代	70 代																																			
6 名	2 名	3 名																																			
多賀城	塩釜	仙台																																			
8 名	2 名	13 名																																			
涌谷	大和																																				
1 名	1 名																																				
はい	いいえ	回答なし																																			
16 名	8 名	1 名																																			
成果	●当センター主催講座・イベントへの新規参加者 総参加人数 25 名の内 16 名（64%）が当センター主催の講座またはイベントの新規参加者だった。 ●NPOやボランティアへの継続実践者を毎回 1 名以上輩出 参加者の中で、希望する方には当センターからのお知らせ送付や講座・イベントの出席を働きかけ、市民活動への理解を高めることを通した育成を継続的に行い、以下のような動きがあった。 ・1 回目の参加者については、その後、当センターへの来館などは確認できていない。 ・2 回目について、参加者の 1 人である東北学院大学工学部学生が、同じ大学																																				

	の学生会メンバーである他生徒と共に、当センターのイベントで、ボランティアスタッフとして参加するなど継続的な活動が見られた。また、当該の学生より、学生が参加できる多賀城でのボランティア情報があれば伝えてほしい、との話を頂いている。 ・ 3 回目について、多賀城市在住の 40 代男性が「講座後自身のスキル・知識を活かせないか」と当センターに相談しており、継続的に市民活動に関わる人材となり得る。 ・ 3 回目について、多賀城市在住の 40 代女性がこれから活動を始めるための心構えや仲間を集める方法などを熱心にゲストへ質問し、助言を仰ぐなど、市民活動への参加に向けて踏み出す意識が伺えた。
次年度に向けた課題	・ 市民活動への参加に多少なりとも興味を持ったと思われる参加者に対して、その自主性を重んじるのみではなく、次のステップへ進むことができるような伴走型の仕組みが必要である。 ・ 1 回目と 2 回目を多賀城で活動する団体に協力をお願いし、その取組みの紹介や体験を通して、団体へ参加する方が現れることで継続的な活動者となることを期待していたが、そうした事例は生まれなかった。 ・ 協力団体へ意見を伺いながら踏み込んだ連携を行うことで、団体への参加というかたちで継続的に市民活動に関われるよう、検討・実践することが必要である。

* 添付資料

■ チラシ

■ 当日配布資料

■ アンケート集計結果



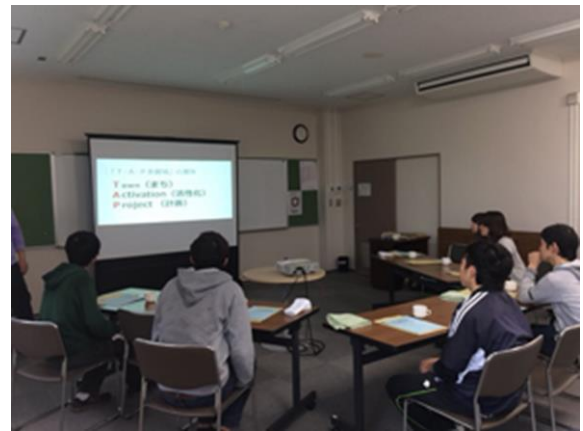
1 回目開催のまち知るハイキングの様子。
場所は政庁に続く大路です。



ゲストのボランティアガイド柴田さん(画像
左)とゲートシティ多賀城の松村さん(画像右)



2 回目のライト取付け体験です。協力団体 T・
A・P 多賀城さんと参加者の協力活動風景。



体験後の交流会の様子です。協力団体の活動
紹介や参加者同士の交流などを行いました。



3 回目のトークイベントより、ゲストの N P
O 法人ピースジャム代表 佐藤賢さんです。



イベント中の 1 コマ、団体の活動体感です。
団体が製作・販売しているジャムのご紹介。

事業名	I-4-1-3 参加・育成事業 NPO いちから塾				
目的	・ NPO の基礎知識を身につけ、市民活動に対する理解を深める。 ・ 市民活動やボランティアを始めるためのヒントを伝える。				
背景	平成 25 年度の「はじめる広場トークタイム」では、市民活動を行っている NPO の方をゲストに招き、活動をはじめたきっかけや想い、実際の活動の様子を伺い、参加者とゲストが新たなつながりを生む機会をつくる講座を実施した。 講座内で NPO や非営利という言葉の意味、NPO の役割などを伝えるコーナーを設けていたが、市民活動に対する理解を深めるためには NPO に関する知識を身につけることが重要であり、それが、市民活動やボランティアを始めるきっかけを提供することにつながることから、今年度は NPO の意味や役割を伝えることに重点を置いた講座を実施することとした。				
成果目標	・ NPO の基礎やその役割など、NPO に対する知識を深めて、講座の理解度を 5 段階評価で平均 4.5 以上を目指す。 ・ ワークショップでどんな分野に自分自身の興味関心があるのか気づいてもらい、市民活動を始めるきっかけにつなげる。				
対象	・ NPO やボランティアについて興味はあるがよくわからない方。 ・ NPO やボランティア活動に参加したいと思っている方。 ・ 活動はしているが、NPO への理解が不足している方。				
実施概況 ・ タイトル ・ 日時 ・ 会場 ・ 目的 * 個別にある場合 ・ テーマ * 必要に応じて ・ 対象 * 個別にある場合 ・ 内容 ・ 講師 ・ 参加費 ・ 定員 / 参加人数	●実施状況 <table border="1"> <tr> <td>第 1 回</td><td>日 時：平成 26 年 10 月 4 日（土） 14:00～15:30 会 場：市民活動サポートセンター 301 会議室 参加人数：10 名</td></tr> <tr> <td>第 2 回</td><td>日 時：平成 26 年 12 月 19 日（金） 19:00～20:30 会 場：市民活動サポートセンター 301 会議室 参加人数：14 名</td></tr> </table> 実施回数：全 2 回 実施時間：1 講座 90 分 参 加 費：無料 ●講座内容 ① NPO いちから塾（40 分） ・ NPO の成り立ちやその仕組み ・ NPO の事例紹介 ② たがさぼガイドツアー（25 分） ・ たがさぼの活用方法を紹介 ③ 活動をはじめためのヒントを見つけよう（25 分） ・ チラシを使用したワークショップ	第 1 回	日 時：平成 26 年 10 月 4 日（土） 14:00～15:30 会 場：市民活動サポートセンター 301 会議室 参加人数：10 名	第 2 回	日 時：平成 26 年 12 月 19 日（金） 19:00～20:30 会 場：市民活動サポートセンター 301 会議室 参加人数：14 名
第 1 回	日 時：平成 26 年 10 月 4 日（土） 14:00～15:30 会 場：市民活動サポートセンター 301 会議室 参加人数：10 名				
第 2 回	日 時：平成 26 年 12 月 19 日（金） 19:00～20:30 会 場：市民活動サポートセンター 301 会議室 参加人数：14 名				
アンケート集計結果	●参加者分析 ①性 別				

	<table><tr><td>男 性</td><td>女 性</td><td>合 計</td></tr><tr><td>12 名</td><td>12 名</td><td>24 名</td></tr></table> ■2 回の講座で合計 24 名（男性 12 名、女性 12 名）の参加があった。 ②年 代 <table><tr><td>20 代</td><td>30 代</td><td>40 代</td><td>50 代～</td></tr><tr><td>2 名</td><td>6 名</td><td>6 名</td><td>10 名</td></tr></table> ■全参加者の内、現役層である 20 代～40 代の受講者は 12 名で、全体の 58.0%を占めた。 ③住 所 <table><tr><td>多賀城</td><td>塩釜</td><td>利府・七ヶ浜・松島</td><td>仙台</td></tr><tr><td>16 名</td><td>1 名</td><td>2 名</td><td>5 名</td></tr></table> ■参加者は多賀城市内の方が全体の 67%を占めた。 ④講座理解度 <table><tr><td>理解度 5</td><td>理解度 4</td><td>理解度 3</td><td>未記入</td><td>平均理解度</td></tr><tr><td>16 名</td><td>4 名</td><td>3 名</td><td>1 名</td><td>4.57</td></tr></table>	男 性	女 性	合 計	12 名	12 名	24 名	20 代	30 代	40 代	50 代～	2 名	6 名	6 名	10 名	多賀城	塩釜	利府・七ヶ浜・松島	仙台	16 名	1 名	2 名	5 名	理解度 5	理解度 4	理解度 3	未記入	平均理解度	16 名	4 名	3 名	1 名	4.57
男 性	女 性	合 計																															
12 名	12 名	24 名																															
20 代	30 代	40 代	50 代～																														
2 名	6 名	6 名	10 名																														
多賀城	塩釜	利府・七ヶ浜・松島	仙台																														
16 名	1 名	2 名	5 名																														
理解度 5	理解度 4	理解度 3	未記入	平均理解度																													
16 名	4 名	3 名	1 名	4.57																													
成果	●NPOの基礎知識を身につけ、市民活動に対する理解を深める ・参加者 24 名の内、講座理解度 5 の評価の方が 16 名で全体の 67.0%を占め、平均理解度は 4.57 だった。 ・すでに市民活動をしている方やこれから始めたいと思っている方を対象に、具体例を交えたNPOの事例やその仕組み、関わり方についての説明により、NPOに対する理解を深めることができた。 ・参加者がNPOとNPO法人の違いについて理解を深めることができた。 ●市民活動やボランティアを始めるきっかけの提供 ・ワークショップの実施により、福祉分野やまちづくり、子どもなど自分の興味関心がどの分野にあるかを参加者自身が整理できた。 ・講座への参加が地域づくりのはじめ方など他の講座の参加へつながり、参加者の数名が活動をはじめのきっかけを提供することができた。																																
次年度に向けた課題	・NPOへの理解を深めるという効果はあったが、講座に参加した方がすぐに活動を始めることは稀であり、参加者に対してアフターフォローを実施するなど活動を促すための長期的な取り組みが必要である。 ・より参加者の興味・関心のある分野を引き出すために、ワークショップの内容を工夫する必要がある。ワークショップではなく参加者同士の交流を促すプログラムを検討する。																																

- ・ T S C 内だけではなく各地域で実施し、新たな地域づくりの人材を発掘する必要がある。

* 添付資料

■ チラシ

■ 当日配布資料

□ アンケート集計結果



N P O についての説明に聞き入る参加者



参加者から出た N P O についての疑問



たがさぼガイドツアーの様子



チラシを使用したワークの様子

事業名	I-4-1-4 参加・育成事業 「tag」 発行事業
目的	・今まで市民活動に関わってこなかった市民に対して、より市民活動が身近に感じる情報を届け参加へのきっかけとする。 ・地域課題に関わる活動を発信することによって、市民が課題意識を持つきっかけとする。 ・TSCの持つ情報を紙媒体で市民へ発信することによって、TSCへのアクセス(特にウェブコンテンツ)につなげる。 ・市民活動の様子を発信していくことによって、多賀城市内における市民活動の認知向上と活動しやすくなるための環境整備を図る。
背景	TSCでは、市民活動に関する情報を館内配架・事業・ウェブ等を通して発信してきた。しかし、TSCを利用しない市民や市民活動に関心がない市民に対しての発信は不十分であった。 そこで、平成 25 年 1 月から、多賀城市民が自らの力で地域づくり・復興を進めていくきっかけとして情報誌「tag」を発行している。デザインや内容等を工夫し、手に取りやすく読みやすい誌面づくりを行い、また、公共施設だけでなくコンビニやスーパー、飲食店等にも配架先を広げ、これまで多くの市民に対し市民活動に触れるきっかけを提供してきた。 今年度は、これまで市民活動に関わってこなかった市民に市民活動に関わるきっかけを提供するとともに、地域課題の発信を強化し、将来的に地域の課題解決を担っていく市民の発掘につなげていく。
成果目標	・多賀城市民の利用が多い駅、飲食店を中心に 20 ヶ所の新たな配架場所を発掘する。 ・平成 26 年度の月ごとのブログ訪問者数平均が 2,300 件以上となる。また、平成 26 年 3 月のブログ訪問者数が 2,500 件以上となる。(平成 25 年度月平均 2,079 件、平成 26 年 3 月 2,262 件) ・「tag」を通して、10 名の市民が市民活動へ参加する。(運営や出演者としての参加を想定。イベント来場者としての参加は除く。) ・「tag」を通して既活動者同士のつながりが 10 件うまれる。 ・「tag」を通して、テレビ・ラジオ・雑誌等から既活動者への取材が 5 件実施される。
対象	・無関心層(市民活動に対し関心を持たない市民) ・潜在的活動者(活動をはじめたいが、きっかけをつかめない市民) ・既活動者(すでに何らかの活動に参加している市民) ・受益者(被災者及び特別な支援・緊急的な支援を必要とする市民)
実施概況	●内容 ※各号の目次は 54 ページ～参照 ・多賀城の人・出来事・物などの地域資源を紹介。 ・地域づくりや課題解決に取り組む団体を紹介。 ・市民活動に携わる人の活動をはじめたきっかけや想いを紹介。

・ 内容 ・ 講師 ・ 参加費 ・ 定員／参加人数	・ 市民活動に T S C スタッフが参加し、その体験を紹介。 ・ 多賀城を中心とした地域の N P O によるイベント・講座を紹介。 ・ T S C のブログ記事を簡単に紹介。 ・ T S C のサービスやイベント・講座等を紹介。 ・ T S C 貸出図書から、読みやすく新たな視点を与えてくれる書籍を紹介。 ●形態 ・ 様式：A4×1 枚 全 2 ページ 両面カラー ・ 発行頻度：毎月 (2014 年 4 月～2015 年 3 月) ・ 発行部数：2,000 部 ・ 誌面デザインは 193tree、印刷はグラフィック印刷に外注。 ●配布先 ・ 多賀城市内及び周辺市町公共施設 ・ 県内外 N P O 支援センター ・ 多賀城市内仮設住宅 ・ 多賀城市内民間施設 (病院等) ・ 多賀城市内民間店舗 (スーパー、コンビニ、飲食店等) ・ マスコミ ・ 市内外イベント
成果	・ 「tag」を見た市民が、地域情報の収集として 2 名、団体立ち上げ相談として 1 名 T S C に来館した。市民への T S C の機能の認知につながった。 ・ 「tag」を見た市民が 2 名掲載団体の販売する物品を購入した。 ・ 町内会が行事を行う際に「tag」を通じて既活動者へ出演依頼を行った。 「tag」を通して活動者同士が繋がったと言える。 ・ 「tag」を見たラジオ・新聞から掲載団体への取材が計 7 件行われた。「tag」がメディアの情報収集手段とされていることが伺われるとともに、メディアが「tag」で得た情報を発信することによって、間接的に市民に N P O の認知が向上した。 ・ 市外の団体が「tag」を見て T S C チラシラックを知り、イベント情報を配架することとなった。市外団体への T S C の機能の認知につながった。 ・ これまで広報手段が少なかった掲載団体が、広報ツールとして「tag」を活用し、市民へ活動の認知向上を図ることができた。
次年度に向けた課題	・ 継続的な配架先の増加にはいたらなかった。次年度は市内民間店舗の把握と連携を強化し、より多くの市民に「tag」を届ける。 ・ ブログアクセス数について、月平均 2,062 件 (前年度 2,079 件) と前年度と比べ横ばい、平成 27 年 3 月 1,586 件 (平成 26 年 3 月は 2,262 件) と前年度と比べ減少となった。要因としては、配架先の開拓ができなかったことで新たな読者の獲得にいたらなかったことが考えられる。次年度は、配架先の開拓の強化と「tag」に掲載するブログ記事の精査を行い、ブログへのアクセスにつなげる。 ・ 震災に関する課題については度々掲載していたが、震災以外での社会課題

を扱うことは少なかった。次年度は、T S C の運営方針に合わせ、市民が課題意識を持つきっかけとなるような記事も掲載する。

* 添付資料

■tag16 号～27 号



tag16 号～27 号。デザイナー・印刷業者への外注により、目にとまりやすく、手に取りやすい誌面となっている。

「tag」 年間発行部数と配布先別部数／各号の掲載内容

号数	発行日	館内	公共施設	支援センター	マスコミ	学校	行政	民間店舗	その他	配布部数合計	発行部数
16号	4月15日	200	302	158	41	75	130	230	80	1,216	2,000
17号	5月15日	200	302	158	41	75	130	230	80	1,216	2,000
18号	6月15日	200	302	158	41	75	130	230	80	1,216	2,000
19号	7月15日	200	302	158	41	75	130	230	80	1,216	2,000
20号	8月15日	200	302	158	41	75	130	230	80	1,216	2,000
21号	9月15日	200	302	158	41	75	130	230	80	1,216	2,000
22号	10月15日	200	302	158	41	75	130	230	80	1,216	2,000
23号	11月15日	200	302	158	41	75	130	230	80	1,216	2,000
24号	12月15日	200	302	158	41	75	130	230	80	1,216	2,000
25号	1月15日	200	302	158	41	75	130	230	80	1,216	2,000
26号	2月15日	200	302	159	41	75	130	230	80	1,217	2,000
27号	3月15日	200	302	159	41	75	130	230	80	1,217	2,000
合計		2,400	3,624	1,898	492	900	1,560	2,760	960	14,594	24,000

号数	発行日	内容(目次)
16号	平成26年 4月15日	P1 リニューアル！たがさぼが新しくなりました ヒント from“たがさぼPress” ・消費税率アップの影響 ・子どもたちとつくる！ご当地カードゲーム ・入って安心！ボランティア保険 たがさぼからのお知らせ みんなのアイディアでまちのワクワクをつくろう P2 -丘の上にあります- たがさぼ活用のススメ
17号	5月15日	P1 みんなのアイディアでまちのワクワクをつくろう ヒント from“たがさぼPress” ・壁新聞はじめました。 ・たがさぼのクリスマス雑貨市を開催しました！ ・「昭和の多賀城写真展」終了しました たがさぼからのお知らせ 多賀城かべ新聞ワークショップ P2 市民活動体験記 ウォーキングで、健康づくり！まち発見！
18号	6月15日	P1 自然が先生！森のようちえん ヒント from“たがさぼPress” ・ちょっと先のまちの姿を想像する ・ボランティアの探し方 ・普段の暮らしの中で「なんとかしたい！」と思うことはありませんか？ たがさぼからのお知らせ たねまく 地域をつくる“17”のエピソード P2 みんなで考える多賀城のこと “やってみよう！”からはじめる地域づくり
19号	7月15日	P1 夏祭り！ご近所の魅力が盛りだくさん！

		ヒント from“たがさぼPress” ・ゴミ拾いはスポーツだ！ ・多賀城の魅力を伝えています！ ・若い世代がまちづくりに関わるためのキーワード たがさぼからのお知らせ たがさぼ文庫のご案内 P2 みんなで考える多賀城のこと 地域と学校が“tag”を組む！GOGOゴミ拾い ブックレビュー ソトコト、TURNS
20 号	8 月 15 日	P1 多賀城期待の新世代 ヒント from“たがさぼPress” ・NPOの「レシピ」があつまる！ChangeRecipe ・手づくり募金箱で、楽しく寄付の受け付けを！ ・多賀城市文化センター「ロビーステージ&サークルフェア」 たがさぼからのお知らせ わたしが T シャツをつくる理由 P2 市民活動はじまりのはじまり 地域に飛び出す！多賀城高校ボランティア同好会 ブックレビュー ミスキャンパスpresents 世界を変える仕事44
21 号	9 月 15 日	P1 多賀城の魅力がギュッとつまったスペース 陸前山王駅前にオープン ヒント from“たがさぼPress” ・よそ者・若者がきっかけに ・町内会が立ち上げたNPO ・おまつり巡り 2014夏 たがさぼからのお知らせ 多賀城を知りつくそう！「たがさんぽ」 P2 市民活動体験記 わたしたちが見つけた 多賀城の新常識！
22 号	10 月 15 日	P1 主役は子ども！たのしく社会を学べる こどものまち ヒント from“たがさぼPress” ・集え、ライダーたち！バイクでまちおこし ・「こどものまちin多賀城」に行ってきました！ ・デザインで社会を変える！NPO法人GIFTHOPE たがさぼからのお知らせ 「悠久の詩都の灯」ライト取付け体験 P2 みんなで考える多賀城のこと 災害から子どもの笑顔を守るには
23 号	11 月 15 日	P1 学べる！遊べる！多賀城オリジナルカルタ ヒント from“たがさぼPress” ・たがフェスイメージキャラクター「多賀さん」青空に舞う ・NPOの活動を応援する140の施策まとめ「NPO法人のための施策ガイドブック」 ・暮らしにつまった地域の魅力「くりはらツーリズムネットワーク」 たがさぼからのお知らせ たがさぼの X ‘mas雑貨市 P2 市民活動はじまりのはじまり 世界が広がる 地域がつながる 読むだけじゃない「本」の魅力
24 号	12 月 15 日	P1 クリスマスには社会に優しいプレゼントを贈ろう！ ヒント from“たがさぼPress” ・より住みやすい地域をみんなで考える「高橋地区懇談会」 ・広がる！地域の部活動「前橋〇〇部」 ・子どもがのびのび自由に遊べるプレーパーク たがさぼからのお知らせ 子どもも親もハッピーになる支援のお話

		P2 市民活動はじまりのはじまり 人が集まることが何かが始まるきっかけに
25 号	平成 27 年 1 月 15 日	P1 わがるすかぁ？地域の魅力 ヒント from“たがさぼPress” ・断捨離で社会貢献「ワールドギフト」 ・鳥目線での多賀城市街展望 ・プロが教えるチラシづくり実習講座 たがさぼからのお知らせ 配架先募集のお知らせ！ P2 みんなで考える多賀城のこと 阪神・淡路大震災から学ぶ「震災」の課題から「地域」の課題へ
26 号	2 月 15 日	P1 多賀城がたっぷりつまったオリジナル料理 やかもち鍋 ヒント from“たがさぼPress” ・スマホのゲームで地域おこし！？リアル陣取りゲーム「Ingress」 ・つながってすべての人が安心して暮らせる地域に ・なべまつりー「鍋食べて 心も体も 温まる」 たがさぼからのお知らせ 想いを地域に活かす！「マイプラン」づくり はじめの一步講座 P2 みんなで考える多賀城のこと 地域密着で活動するからこそ見える「震災」の課題から「地域」の課題へ
27 号	3 月 15 日	P1 プレーパークでのびのびあそぼう！ ヒント from“たがさぼPress” ・「遠距離介護」のお手伝い NPO 法人パオッコ ・地域を歩いてオリジナル防災マップをつくろう ・課題に悩む NPO 必見！「困ったときのゲンバの知恵袋」 たがさぼからのお知らせ 地域の情報が集まっています！ P2 みんなで考える多賀城のこと 東日本大震災から見た ボランティアの役割

事業名	I-4-2-1 自治活動支援事業 プロジェクトを起こそうプロジェクト
目的	・市民活動や地域活動に関わる人材の発掘・育成を行う。 ・地域の課題を発見・解決する力を養い、新たな市民活動団体・プロジェクトを立ち上げるきっかけ作りを行う。
背景	多賀城市では以前より、市民活動・地域活動に関わる人材の不足が言われている。実際、多賀城市「まちづくりアンケート（※）」の結果を見ると、約 4 割が市民活動・NPO 活動などに「興味がないので参加する気はない」と回答している。ただ、同設問で「すでに参加している」「今後参加したい」人も 4 割強を占めており、まちづくりに「関心がある」「どちらかといえば関心がある」人も約 6 割強存在することが分かった。 そこで、興味・関心のある人に向けては講座等を通して、地域を知った上で課題に気づき、解決に向けて考えてもらう場や、まちづくりのさまざまなアプローチのしかたを学び実践する場を提供する。また無関心層に向けては、関わりやすい講座テーマを設定することで参加を促す。そして、講座を通して「ここまでやれた」感や自分が関わってできた成果を手にするすることで、参加者が市民活動や地域活動に関わるきっかけをつかめると考え、本事業を企画した。 ※「まちづくりアンケート」は平成 26 年 2 月に実施。 (対象 3,000 人、有効回答数 1,687)
成果目標	・市民活動・地域活動に関わっていく人材を、講座参加者から輩出する。 ・講座への参加を通して、新たな市民活動団体・プロジェクトが立ち上がる。
対象	・市民活動や地域活動に興味・関心のある人 ・地域のために、何か活動を始めたいと考えている人 ・多賀城をよりよくしたいと考えている人同士でネットワークを作りたい人
実施概況 ・タイトル ・日時 ・会場 ・目的＊個別にある場合 ・テーマ＊必要に応じて ・対象＊個別にある場合 ・内容 ・講師 ・参加費 ・定員／参加人数	①多賀城を知りつくそう！「たがさんぽ」 日 時：(1 回目) 平成 26 年 10 月 16 日 (木) 19:00～20:30 (2 回目) 平成 26 年 10 月 18 日 (土) 13:00～17:00 会 場：多賀城市市民活動サポートセンター 301 会議室 多賀城市下馬地区 (2 回目) テーマ：まちあるき 内 容：1 回目は、「まちあるきとは？」というお話からはじまり、各地のまちあるきの事例の紹介や、まちあるきを楽しむポイントなどを学んだ。その後、2 回目に行うまちあるきの計画を立てた。 2 回目は、計画に沿って下馬地区を歩いたのち、撮った写真を見ながら気づいた、気になったポイントを地図に書き込むなどのまとめを行った。 講 師：岡井健さん (NPO 法人都市デザインワークス／ NPO 法人日光門前まちづくり 理事長) 参加費：500 円 (1、2 回目合わせて) 定 員：15 名／参加者数：1 回目 5 名、2 回目 4 名

②ココロときめく！人の集まる「場」のつくりかた

日 時：（トークイベント）平成 26 年 11 月 7 日（金）19:00～20:30

（ワークショップ）平成 26 年 11 月 8 日（土）13:00～16:00

会 場：多賀城市市民活動サポートセンター 2 階ギャラリー

テーマ：コミュニティづくり

内 容：トークイベントでは、ゲスト自身が行っている場づくりのさまざまな実践について聞き、そこから場づくりに大事なことや心掛けについて学んだ。

ワークショップでは、当センターのフリースペースという場で自分の取り組んでみたいことを考え、その案を参加者同士でアドバイスしあいながら企画書にまとめた。

ゲスト：平間拓也さん（株式会社ざおうハーブ 代表取締役）

参加費：500 円（トークイベントとワークショップを合わせて）

定 員：15 名／参加者数：トークイベント 17 名、ワークショップ 5 名

※ワークショップで作成した企画を、「たがさぼ『場のつくりかた』プロジェクト」と銘打って 1～3 月にかけて講座参加者が実施した（詳細は下記参照）。当センターとしては、企画立案やチラシの作成、広報などのサポートを行った。

○たがさぼ「場のつくりかた」プロジェクト

1) 「拝啓、1 年後のわたし」

日 時：平成 27 年 1 月 18 日（日）13:00～16:00

会 場：多賀城市市民活動サポートセンター 3 階交流サロン

内 容：自分を振り返り、1 年後の自分に手紙を書いた

参加費：500 円

定 員：10 名／参加者数：8 名

・関連企画 1 「ふたりの写真展」

期 間：平成 27 年 1 月 18 日（日）～2 月 8 日（日）

会 場：多賀城市市民活動サポートセンター 3 階交流サロン

内 容：「拝啓、1 年後のわたし」の企画者が撮影した写真の展示

・関連企画 2 ミニ朗読会「じぶんをみつめる わたしの時間」

日 時：平成 27 年 2 月 7 日（土）14:00～、19:00～（各 30 分程度）

会 場：多賀城市市民活動サポートセンター 3 階交流サロン

内 容：絵本の読み聞かせや詩、エッセイの朗読

出 演：ココノびと

参加費：無料

参加者数：14:00 の回 10 名、19:00 の回 2 名

2) 「台風被害から 2 年 今、フィリピンの人々は…。」

日 時：平成 27 年 3 月 28 日（土）10:00～12:00

会 場：多賀城市市民活動サポートセンター 3 階交流サロン

内 容：フィリピンの現状の報告、必要な支援についての話など

参加費：無料

参加者数：25 名

・関連企画 「フィリピンの今」写真展

日 程：平成 27 年 3 月 22 日（日）～3 月 28 日（土）

会 場：多賀城市市民活動サポートセンター 3 階交流サロン

内 容：フィリピンの台風被害とその後に関する写真の展示

③想いを地域に活かす！「マイプラン」づくり はじめの一步講座

日 時：平成 27 年 3 月 21 日（土）13:30～16:30

会 場：多賀城市市民活動サポートセンター 301 会議室

テーマ：地域づくりの人材育成

内 容：前半の講話では、講師が行っている地域づくりに携わる人材の育成を踏まえながら、心掛けるべきことや小さくても少しずつ行動していくことなどについてお話をいただいた。

後半は、グループと全体でのワークの中で参加者が持っている地域づくりへの想いを発表してもらい、講師からのアドバイスなどを通して自分の考えを整理・発展させていった。

講 師：尾野寛明さん（有限会社エコカレッジ 代表取締役）

参加費：500 円

定 員：15 名／参加者数：8 名

④たがじょうしき壁新聞部のサポート

○たがじょうしき壁新聞部は、平成 26 年 5 月 31 日（土）に開催した「たがさぼりニューアル記念イベント」プレイベント「多賀城かべ新聞ワークショップ」の参加者有志がイベント後の 7 月に立ち上げた。当センターでは、編集や広報のサポート、打合せの場の提供などを行った。

○たがじょうしき壁新聞部の主な活動

・平成 26 年 7 月 5 日（土）部の立ち上げ及び第 2 号発行に向けたミーティング（参加者：4 名）

・平成 26 年 8 月 2 日（土）第 2 号取材・編集・発行（参加者：6 名）

・平成 26 年 11 月 1 日（土）第 3 号取材・編集（参加者：5 名）
（発行は 12 月 1 日（月））

・平成 27 年 2 月 3 日（火）ミーティング（参加者：4 名）

○第 4 号の取材・編集は平成 27 年 4 月 11 日（土）に行う予定。

アンケート集計結果

①多賀城を知りつくそう！「たがさんぽ」

○講座内容はいかがでしたか。（4 段階評価・数値が多いほど理解度が高い）

4	3	2	1
4 名	0 名	0 名	0 名

○多賀城についての新しい発見はありましたか。

（4 段階評価・数値が大きいほど発見が多い）

	<table><tr><td>4</td><td>3</td><td>2</td><td>1</td></tr><tr><td>4 名</td><td>0 名</td><td>0 名</td><td>0 名</td></tr></table>	4	3	2	1	4 名	0 名	0 名	0 名												
4	3	2	1																		
4 名	0 名	0 名	0 名																		
	②ココロときめく！人の集まる「場」のつくりかた ○トークを聞いて、今後の活動に生かせそうなことはありましたか。 (4 段階評価・数値が大きいほど生かせることが多い) <table><tr><td>4</td><td>3</td><td>2</td><td>1</td><td>未記入</td></tr><tr><td>10 名</td><td>5 名</td><td>1 名</td><td>0 名</td><td>1 名</td></tr></table> ○ワークショップでの企画づくりはうまくできましたか。 (4 段階評価・数値が大きいほどうまくできた) <table><tr><td>4</td><td>3</td><td>2</td><td>1</td><td>未記入</td></tr><tr><td>1 名</td><td>2 名</td><td>0 名</td><td>0 名</td><td>2 名</td></tr></table>	4	3	2	1	未記入	10 名	5 名	1 名	0 名	1 名	4	3	2	1	未記入	1 名	2 名	0 名	0 名	2 名
4	3	2	1	未記入																	
10 名	5 名	1 名	0 名	1 名																	
4	3	2	1	未記入																	
1 名	2 名	0 名	0 名	2 名																	
	③想いを地域に活かす！「マイプラン」づくり はじめの一步講座 ○講師の話聞いて、今後活動を進める上でのヒントは得られましたか。 (4 段階評価・数値が大きいほど得られたことが多い) <table><tr><td>4</td><td>3</td><td>2</td><td>1</td><td>未記入</td></tr><tr><td>5 名</td><td>1 名</td><td>0 名</td><td>0 名</td><td>2 名</td></tr></table> ○ワークショップを通して、自分の取り組みたいことや考えがはっきりとしてきましたか。(4 段階評価・数値が大きいほどはっきりしてきている) <table><tr><td>4</td><td>3</td><td>2</td><td>1</td><td>未記入</td></tr><tr><td>2 名</td><td>3 名</td><td>1 名</td><td>0 名</td><td>2 名</td></tr></table>	4	3	2	1	未記入	5 名	1 名	0 名	0 名	2 名	4	3	2	1	未記入	2 名	3 名	1 名	0 名	2 名
4	3	2	1	未記入																	
5 名	1 名	0 名	0 名	2 名																	
4	3	2	1	未記入																	
2 名	3 名	1 名	0 名	2 名																	
	※その他詳細は、添付資料を参照のこと。																				
成果	●市民活動・地域活動に関わっていく人材の輩出に関して ・全体的に講座参加者の満足度、理解度は高く、それぞれの講座テーマに関するヒントや視点を持ち帰ってもらえた。 ・『場』のつくりかた」講座では、講座で作った企画書をもとに、当センターの協力し、参加者が場づくりを実践することができた。 ●新たな市民活動団体・プロジェクトの立ち上げに関して ・たがじょうしき壁新聞部は、イベント後も参加者有志によって活動が継続され、団体としての形も整ってきている。 ・参加者にとっては、講座に参加することで同じ考えを持った人と知り合う機会となり、つながりの種を作ることができた。																				
次年度に向けた課題	●市民活動・地域活動に関わっていく人材の輩出に関して テーマを絞っての講座だけでなく、地域に対する自分の想いの実現や地域課題の解決のために地域づくりに携わりたいと考えている人向けの、地域人材の育成を行うような講座の企画も視野に入れていく必要がある。 ●新たな市民活動団体・プロジェクトの立ち上げに関して																				

講座後の「出口」がしっかりと用意できておらず、参加者が講座の成果をすぐに次の活動に生かせなかったのも、その点の工夫を図る。

* 添付資料

■チラシ ■当日配布資料 ■アンケート集計結果
■「たがじょうしき壁新聞」(第1号～第3号)

【多賀城を知りつくそう！「たがさんぽ」】



まちあるきについて話す
講師の岡井健さん



講話で出た視点も参考に
下馬地区を実際に歩く



まちあるきで気づいたことを
地図に落とし込む

【ココロときめく！人の集まる「場」のつくりかた】



自身の場づくりの事例を話す
講師の平間拓也さん



講話への質問も多岐に
わたった



企画づくりワークショップ
考えた企画案を発表

【想いを地域に活かす！「マイプラン」づくり はじめの一步講座】



地域づくりの事例を話す
講師の尾野寛明さん



グループに分かれ、講話の
感想や自分の想いを話す



想いを発表した参加者に尾野
さんがアドバイスする

事業名	I-4-2-2 自治活動支援事業 活動お役立ち専門相談
目的	市内のNPO、地縁組織の組織力・運営力の向上を図るため、各々の活動や運営に適したテーマで講座・相談会を行って、市民力・自治力を育み、多賀城の地域力を向上させていく。
背景	本事業は平成 24 年度から、市内のNPO、自治会・町内会の市民力・自治力を育むことを目的に講座・相談会を実施してきた。講座・相談会の実施が市内NPO、地縁組織の組織力・運営力の強化となり、多賀城の市民力・自治力向上につながるものであるため、多賀城で活動する団体が、講座・相談会で得たノウハウを多賀城で活かすことのできることを目指す。 平成 25 年度からは新しい取り組みとして、講座中、参加者のグループワークにスタッフが入り、参加者との交流を通して関係性づくりに努め、講座・相談会後には継続相談を希望する参加者を対象に感想や課題をヒアリングし、市民活動相談につなげて課題解決の後押しを行う。
成果目標	・ 講座・相談会后、NPO、地縁組織が、組織運営や地域の課題解決に向けて行動を起こすこと。 ・ 講座・相談会に参加したNPO、地縁組織が、当センターの相談を受けながら、組織運営や地域の課題を解決すること。
対象	●NPO ・ 当センター事務用ブース・ロッカー・レターケース利用団体 ・ 多賀城市内に拠点を置き、多賀城で活動するNPO ・ 多賀城市外に拠点を置き、多賀城を含む地域で活動するNPO ●地縁組織 ・ 多賀城市内の町内会・自治会、子ども会、学校・地域の親の会など
実施概況 ・タイトル ・日時 ・会場 ・目的＊個別にある場合 ・テーマ＊必要に応じて ・対象＊個別にある場合 ・内容 ・講師 ・参加費 ・定員／参加人数	<全 3 回> ①安定した活動を目指したいNPOのための資金の基礎を学ぶ講座 日 時：平成 26 年 10 月 25 日(土) 13:30～15:30 会 場：多賀城市市民活動サポートセンター 大会議室 テーマ：資金調達 対 象：NPO・市民活動団体など 内 容：NPOの資金源「会費」「寄付金」「助成金(補助金)」「事業収入」を「自由度」「支援性」「調達効率」の3つの視点で説明し、団体で取り組める寄付の事例を紹介した。 講 師：徳永洋子さん(NPO法人日本ファンドレイジング協会 事務局長) 参加費：500 円 定 員：15 名／参加者数：9 名

②自治会・町内会・地域活動団体のための

プロが教えるチラシづくり実習講座

日 時：平成 26 年 11 月 29 日(土) 13:30～16:00

会 場：多賀城市市民活動サポートセンター 大会議室

テーマ：チラシづくり

対 象：自治会・町内会、NPO・市民活動団体など

内 容：「5W2H」「追加情報（写真、イラスト、地図、時間割、主催者情報、キャッチなど）を挿入したときの効果」「チラシの仕様（用紙サイズ・種類、面数、印刷部数、印刷方法など）」など、チラシ作成に必要な基礎情報を導入し、ラフデザインを作成した。

講 師：大泉浩一さん（一般社団法人メディアデザイン／ライター・編集者）

参加費：500 円

定 員：15 名／参加者数：15 名

③NPO・市民活動団体のための組織運営個別相談会

日 時：平成 27 年 1 月 31 日(土) 11:00～16:10（1 団体 50 分）

会 場：多賀城市市民活動サポートセンター 302 会議室

テーマ：組織運営

対 象：NPO・市民活動団体など

内 容：「仲間づくり」「資金調達」「事業の始め方」「活動の広げ方」など、活動をする上で重要となる組織運営について、相談員から具体的なアドバイスを行った。

相談員：小野寺美厚さん（NPO法人ネットワークオレンジ 代表理事）

定 員：4 団体／参加団体：3 団体

アンケート集計結果

①安定した活動を目指したいNPOのための 資金の基礎を学ぶ講座

【参加 9 名】

○所 属 (人)

NPO	町内会	企 業	個 人	行 政	その他
7	0	0	1	1	0

○講座の理解度／5 段階評価 数値が大きいほど理解度が高い (人)

5	4	3	2	1	未記入
2	7	0	0	0	0

②自治会・町内会・地域活動団体のための

プロが教えるチラシづくり実習講座

【参加 15 名】

○所 属 (人)

NPO	町内会	企 業	個 人	行 政	その他
7	0	0	1	1	0

○講座の理解度／5 段階評価 数値が大きいほど理解度が高い (人)

5	4	3	2	1	未記入
11	1	1	0	0	2

③NPO・市民活動団体のための組織運営個別相談会

【参加 3 団体】※アンケートではなく、相談会后個別にヒアリングを行った。

○所 属 (団体)

NPO	町内会	企 業	個 人	行 政	その他
3	0	0	0	0	0

成果

・ 講座・相談会后、NPO、地縁組織が、組織運営や地域の課題解決に向けて行動を起こすこと

講師・相談員の高い専門性と知識を活かして、活動事例の紹介から、すぐに活用できるノウハウを提供し、次の活動目標を提案することができた。

主な成果事例として、資金調達講座で紹介した寄付の事例を取り入れ、自分たちの活動現場に募金箱を設置して資金調達につながったケースがある。また、チラシづくり講座で紹介した「5W2H」と「ラフデザインの仕方」を参考に、当センターへチラシ相談をする前に、自身で内容を整理して相談に訪れたケースもあった。

・ 講座・相談会に参加したNPO、地縁組織が、当センターの相談を受けながら、組織運営や地域の課題を解決すること

講座・相談会終了後、アンケートで希望する参加者を対象にスタッフから連

	絡を取り、講座・相談会の感想から現在の活動や課題についてのヒアリングを実施することにより、参加者の抱えている課題を把握し、互いの関係性を構築することができた。また参加者の必要に応じて、当センターが気軽に相談できることを知っていただき、課題解決に向けた事例やノウハウを提供することができ、資金調達や広報面の組織運営の課題解決につながった。
次年度に向けた課題	・多賀城市内の団体の育成 平成 24～25 年度に実施した講座・相談会の多賀城からの参加率は、平成 24 年度は 68.5%、平成 25 年度は 57.4%と過半数を占める数値を示している。今年度は 55.5%と前年度に続き過半数を占めた。しかしながら、人口約 62,000 人の多賀城のまちで、NPO、地縁組織を対象に講座・相談会を毎年継続していくには活動者の分母は決して多くはないため、他の事業とも連携して、新規活動者の発掘・育成を行う必要がある。

* 添付資料

■チラシ

■当日配布資料

□アンケート集計結果

①安定した活動を目指したいNPOのための資金の基礎を学ぶ講座



②自治会・町内会・地域活動団体のためのプロが教えるチラシづくり実習講座



③NPO・市民活動団体のための組織運営個別相談会



事業名	I-4-3-1 地域連携事業 地域課題把握のための場づくり
目的	地域課題（魅力）の把握、地域づくり関わる人材・団体を把握する。
背景	地域づくりをすすめる上で地域のニーズが見えにくい、あるいは地域づくりに関わる人材・団体が地域で孤立しているケースが見受けられる。また、地域内・地域間での情報共有やノウハウ共有が進んでおらず、ネットワークが希薄である。本事業では地域の課題解決・価値創造のためのネットワーク再構築に向けての第一歩として多賀城市が行う地域づくり支援制度のモデル地区（高橋）への地域づくりを住民や連携先とともに促進する。
成果目標	・モデル地区（高橋）の課題（魅力）を明らかにすること。 ・モデル地区（高橋）の地域づくりの担い手を把握すること。 ・モデル地区（高橋）の地域の課題解決・価値創造のためのネットワークを構築すること。
対象	モデル地区（高橋）の町内会会長・役員／民生委員／社会教育推進委員／スポーツ振興委員／環境推進員／地域住民／市担当職員ほか
実施概況 ・タイトル ・日時 ・会場 ・目的＊個別にある場合 ・テーマ＊必要に応じて ・対象＊個別にある場合 ・内容 ・講師 ・参加費 ・定員／参加人数	①モデル地区（高橋）の話し合いへの参加 11月8日（土）開催の高橋地区地域づくり勉強会を皮切りにスタートする、高橋地区地域づくり懇談会に参加し地区内の課題や魅力について時間をかけて把握する。 高橋地区地域づくり勉強会 日 時：11月8日（土）10:00～12:00 会 場：高橋生活センター 参加者：高橋地区市民、多賀城市役所職員、TSCスタッフ 高橋地区地域づくり懇談会 1回目：11月17日（月） 2回目：12月8日（月） 3回目：1月19日（月） 会 場：高橋生活センター 参加者：高橋地区市民、多賀城市役所職員、TSCスタッフ 高橋地区4区合同住民交流卓球大会実行委員会 第1回目：2月13日（金） 第2回目：2月24日（火） 第3回目：3月10日（火） 第4回目：3月19日（木） 会 場：高橋生活センター 参加者：実行委員、多賀城市役所職員、TSCスタッフ

	高橋地区ふれあい卓球フェスティバル 日 時：3 月 21 日（土）10:00～13:00 会 場：高橋生活センター 参加者：200 名程度 ②モデル地区の地域づくりの担い手の把握 話し合いを重ねる中で参加者の地域での役割や現状、それぞれの関係性について把握する。また、地域づくりを進める上での課題を明らかにする。 ③地域内ネットワークの構築 地域づくりの担い手がそれぞれ孤立している、ネットワークが希薄という仮説のもと、担い手同士をつなげるネットワークを再構築する。場合によっては、地域外の資源とのつながりをつくる。 ④モデル地区の事例をリーフレットにする 高橋地区の事例を参考にした地域づくりのステップを他地区・他地域に伝えるためのリーフレットを 1,500 部作成し、配布する。
成果	・モデル地区（高橋）の懇談会への参加から、地域課題や魅力の一部が明らかとなった。 ・モデル地区（高橋）の事例を参考にリーフレット 1,500 部発行し、地域づくりを進める手がかりとして活用できるツールを提供できた。 ・モデル地区（高橋）の地域資源や地域づくりにキーマンを把握することができた。 ・将来的な連携などを見据えた T S C とモデル地区とのネットワークを構築することができた。
次年度に向けた課題	・モデル地区の継続的なサポートや地域コミュニティ課とのさらなる連携が必要である。 ・リーフレットを活用し、他地区への地域づくりを促進する手がかりとする。 ・地域課題の深堀や地域内・地域間ネットワーク構築など中期的な視点を持った、伴走型支援が必要である。

* 添付資料

■成果物「地域づくりお役立ちガイド」



懇談会の様子



テーブルごとに話し合い



卓球大会の様子



もちつき体験

事業名	I-4-4-1 市職員研修事業 市職員研修
目的	多賀城市職員に、市民による問題解決行動（市民活動）と協働の本質について事例を通して理解してもらうことで、協働推進の基盤をつくることを目的とする。
背景	平成25年度市職員によって実施された多賀城市地域づくり支援制度検討委員会の報告書では、住民による話し合いをもとにした地域づくりの新たなしくみが提案されている。それを受けて平成26年度作成された「多賀城市地域づくり基本指針」では、地域づくりは行政区単位での住民自治活動を基本とし、個々の行政区単位で解決できない課題は、他の地区やNPOなどさまざまな団体と連携して対応できる仕組みを構築していくとされている。あわせて、地域と行政職員との信頼関係を深化させ、一緒に取り組む体制づくりも進めていくことになっており、今後、多賀城市において協働の地域づくりがさらに推進されることが見込まれる。
成果目標	市民による問題解決行動の本質を理解し、公共の担い手は行政だけでないことを理解する。
対象	職務の級が3級の職員、その他受講を希望する職員
実施概況 ・タイトル ・日時 ・会場 ・目的＊個別にある場合 ・テーマ＊必要に応じて ・対象＊個別にある場合 ・内容 ・講師 ・参加費 ・定員／参加人数	<全3回> ●1日目 「地域づくりの今／協働基礎講座」 日時：1月27日（火）10:00～12:00 会場：多賀城市市民活動サポートセンター 302 会議室 内容：・地域づくりとは？他地区の事例を知る。 ・市民参加とは？協働とは？ 講師：足立千佳子さん（NPO法人まちづくり政策フォーラム 理事） ●2日目 「協働で地域課題解決に取り組む市民活動団体の現場訪問」 日時：2月5日（木）9:30～12:00 NPO法人FORYOUにこの家 2月6日（金）9:30～12:00 地域生活支援オレンジねっと ※2団体のうちどちらかを選択 会場：各団体活動拠点 内容：・高い専門性を持ち特定のテーマの課題解決に取り組むNPO、地域課題の解決が最大の意義である自治会・町内会等による住民自治活動、そして、地域課題の解決のために仕事をする行政、これらの3者が連携して地域課題解決に取り組む現場を訪問し、地域課題を発見し解決に向けた取り組みに学ぶことで、協働が地域課題解決の手法のひとつであることや市民活動の本質を学ぶ。 ●3日目 「気づきの共有と仕事への活かし方を考えるワーク」 日時：2月13日（金）9:00～12:00 会場：多賀城市市民活動サポートセンター 302 会議室 内容：・体験の気づきを共有

	・自分の仕事の中で協働の可能性を考えるワーク 講師：足立千佳子さん（NPO法人まちづくり政策フォーラム 理事） ●参加費：無料 ●定員：10 名／参加者数：8 名																				
アンケート集計結果	○満足度（5 段階評価 数値が大きいほど満足度が高い） <table><tr><td>5</td><td>4</td><td>3</td><td>2</td><td>1</td></tr><tr><td>5 名</td><td>3 名</td><td>0 名</td><td>0 名</td><td>0 名</td></tr></table> ○理解度（5 段階評価 数値が大きいほど理解度が高い） <table><tr><td>5</td><td>4</td><td>3</td><td>2</td><td>1</td></tr><tr><td>2 名</td><td>6 名</td><td>0 名</td><td>0 名</td><td>0 名</td></tr></table> ○今後参加したい研修 ・協働の事例、市民活動の見学・体験、ファシリテーター研修	5	4	3	2	1	5 名	3 名	0 名	0 名	0 名	5	4	3	2	1	2 名	6 名	0 名	0 名	0 名
5	4	3	2	1																	
5 名	3 名	0 名	0 名	0 名																	
5	4	3	2	1																	
2 名	6 名	0 名	0 名	0 名																	
成果	<アンケートより> ・市民活動の現場を訪問し活動者の話を直接聞くことで、市民による地域課題解決行動の本質とともに、公共の担い手は行政だけでないことへの理解が深まった。 ・協働の定義や推進する上で大事なことを講義や現場訪問から学び、市民協働の本質への理解が深まった。 ・市民協働を進める上で課題の共有等のプロセスで必要となるワークショップの手法を学ぶことで、理論だけでなく実務の中で役立つノウハウも得ることができた。																				
次年度に向けた課題	・多賀城市としてどのように市民協働を進め、そのためにどのような職員を必要としているのかを明らかにする。その上で長期的な視点に立ち、どの職歴にどのような研修が必要なのかを市とともに検討する必要がある。																				

* 添付資料

□チラシ

□当日配布資料

□アンケート集計結果



講座の様子



ワークの様子



現場訪問の様子



事業名	I-4-5 たがさぼリニューアル記念イベント
目的	リニューアルした T S C の設置目的や機能を市民に周知するとともに、多様な市民の地域づくりへの参加のきっかけづくりの場とする。
背景	平成 25 年度、T S C では、エレベーターの設置と空調設備の改修を中心にハードの整備が行われた。平成 26 年度 4 月からは施設がリニューアルし、より利用しやすい環境となった。今後は、これまで以上に多様な市民が施設を利用することが想定される。合わせて、T S C の設置目的や機能を改めて市民に伝える必要がある。
対象	潜在的活動者・既活動者
実施概況 ・タイトル ・日時 ・会場 ・目的＊個別にある場合 ・テーマ＊必要に応じて ・対象＊個別にある場合 ・内容 ・講師 ・参加費 ・定員／参加人数	たがさぼリニューアル記念イベント ●みんなのアイデアでまちのワクワクをつくろう (ゲストトーク&パネルディスカッション) 日 時：平成 26 年 6 月 1 日（日）13:00～16:00 会 場：多賀城市市民活動サポートセンター大会議室 定 員：80 名 参加人数：55 名 参加費：無料 内 容： ①主催者あいさつ 多賀城市市長 菊地健次郎 ②ゲストトーク トークテーマ：つながりでつくる元気な地域 石井大一郎さん（認定 N P O 法人市民セクターよこはま 理事） トークテーマ：「自分にもできる」地域づくり 鈴木菜央さん（N P O 法人グリーンズ 代表理事） ③パネルディスカッション 「今、このまちに大切なこと、そして、明日からできること」 パネラー：石井大一郎さん（認定 N P O 法人市民セクターよこはま理事） 鈴木菜央さん（N P O 法人グリーンズ 代表理事） 吉田忠彦さん（劇団ポトフ／史都多賀城万葉まつり実行委員会） 佐々木優美さん（家庭文庫「ちいさいうち」） 柴田十一夫さん（志引町内会 会長） コーディネーター：桃生和成（多賀城市市民活動サポートセンターセンター長） ●関連イベント 1 ・雑貨市 ・タケヒロネとやかもち鍋の食べ比べ ●関連イベント 2 ・昭和の多賀城写真展 ・教えてください！多賀城の魅力 ・たがさぼガイドツアー

	●プレイベント 多賀城かべ新聞ワークショップ 日 時：平成 26 年 5 月 31 日（土）10:00～19:00 場 所：多賀城市市民活動サポートセンター大会議室集合 定 員：20 名 参加人数：14 名 講 師：藤本智士さん（編集者／有限会社りす 代表） 参加費：無料 内 容：参加者が多賀城のまちなかを歩き、地域の魅力を一枚のかべ新聞にまとめる。
アンケート集計結果	自由記述欄より一部抜粋 ・同じ問題意識をもった人たちがこんなにいたんだなーと思いました。「何かしたい」けど「何をしたらいいのかわからない」人たちをどう巻き込んでいくのか、その企画や発想力・創造力が必要だと感じました。 ・“地域の課題”よりも“ワクワクすること”地域を知る、企画する、楽しむっていうのは良いなーと思いました。自分の住む地域に無関心な人はいないと思うので、小さな入り口が沢山あると良いなと思います。 ・地域について考えるキッカケとなりました。特に場集えることや話し合うことの大切さを感じました。
成果	・述べ 200 名以上の来館があり、改修した T S C を多くの方に認知してもらった。また、たがさぼガイドツアーでは、参加者が機能について理解することができた。 ・講演会&パネルディスカッションでは、地域づくりの主役が地域住民であることを再確認する機会となり、参加者が今後、自発的な活動に移すきっかけとなった。 ・かべ新聞ワークショップは、実施後に自発的なプロジェクトが生まれ、新たな団体の立ち上げにつながった。
次年度に向けた課題	・平成 30 年には、開館から 10 年を迎える。これまでの 10 年とこれからの 10 年を見据えたふりかえりと新たなビジョンを示す場となる。 ・多様な市民による利用を促進するために、多くの視点で T S C の価値を外部に発信していく必要がある。
備考	主催：多賀城市／（財）自治総合センター 協賛：N P O 法人せんだい・みやぎ N P O センター ※このシンポジウムは全国モーターボート競走施行者協議会からの拠出金を受けて実施するものです。

* 添付資料

■チラシ ■当日配布資料 □アンケート集計結果



ゲストトーク



パネルディスカッション



雑貨市



鍋食べ比べ



昭和の多賀城写真展



たがさぼガイドツアー



教えてください！多賀城の魅力



多賀城かべ新聞ワークショップ

I-4-6-1 たがさぼ文庫の運用【自主事業】

たがさぼ文庫は、情報サロン内にある市民活動、NPO、地域活動などに関する書籍を集めた図書貸出コーナーとして平成 21 年 6 月 1 日より開始した。

広報、会計、労務など団体のマネジメントに関する書籍、市民活動の入門ガイドとなる書籍、市民活動の各分野（福祉・まちづくり・子ども・環境など）の専門書のほか、ハウツーや多賀城に関する書籍を中心にそろえている。また、東日本大震災後は、震災に関する書籍も積極的に収集している。

<蔵書数>

914 冊（平成 27 年 3 月現在）

<概要>

- ・事前登録により、貸出カードを発行。
- ・1 人 2 冊まで、貸出期間は 2 週間。



平成 26 年度書籍貸出件数（平成 26 年 4 月～平成 27 年 3 月）

		貸出図書		
		登録者数	貸出件数	貸出冊数
		人	件	冊
平成 20 年度				
平成 21 年度		37	100	132
平成 22 年度		19	132	109
平成 23 年度		24	76	116
平成 24 年度		29	122	158
平成 25 年度		18	98	137
平成 26 年度	4 月	1	4	6
	5 月	1	7	14
	6 月	2	8	12
	7 月	2	14	20
	8 月	1	6	8
	9 月	0	6	7
	10 月	3	9	11
	11 月	2	5	7
	12 月	3	6	8
	1 月	2	9	14
	2 月	1	8	11
	3 月	2	7	9
平成 26 年度計		20	89	127

平成 26 年度は前年度と比較し、登録者数は増加、貸出件数・貸出冊数は減少している。要因としては、貸出図書の PR が不十分であったことが挙げられる。

一方で、市民活動相談の中でスタッフから適切な図書を紹介することで貸し出しにつながり、活動に役立てている利用者もいた。特に今年度ははじめてイベントを開催する方、現在行っている活動を周知したいと思っている方に対して、チラシの作り方に関する書籍をご紹介することができた。

次年度以降も相談対応の中で適宜スタッフから書籍を紹介し、活用していただくとともに、貸出図書の機能自体も広めていく。また、次年度は各分野での社会課題に関する図書を収集して課題解決を担う市民の育成を行うとともに、文化交流拠点の設置、駅前の再開発、災害公営住宅入居といった市の動向と市民の関心ごとに合わせた図書も随時そろえていく。

Ⅱ

平成 27 年度 施設運営方針

Ⅱ－1 多賀城市の動き

多賀城市は、目指す将来都市像を示し、まちづくりの目的や目標を共有できる計画として『第五次多賀城市総合計画』（計画期間：平成23～32年度）を策定している。サブフレーズでは「～支えあい・学びあい・育ちあい～個人、家庭、町内会、市民活動団体、企業、学校、行政など、まちや地域を構成する多様な主体が、地域でお互いに支えあい、互いに学びあい、互いに力を合わせて成長しあえるまち」と協働によるまちづくりの重要性を示している。施策の中には「市民活動の充実」が含まれ、T S Cは協働のまちづくりの拠点として位置づけられている。

また、東日本大震災からの復興に向けて策定された『多賀城市震災復興計画』の中では、「第五次総合計画を踏まえ、市民、町内会、N P O、企業など多様な主体のそれぞれが復興の主役となることや、それぞれの主体がお互いにつながる、支えあう、育ちあうことを基本に、復興に向けて取り組む」ことを復興理念に掲げている。

平成 27 年 4 月から新規導入や改訂がある子ども・子育て支援新制度、生活困窮者自立支援制度、介護保険制度改正は、将来、N P Oや自治会・町内会に代表される市民活動団体と行政担当課等の協力・連携・協働がより必須と予想される。平成 28 年 3 月 21 日にオープンする新図書館を含めた新たな文化交流拠点は、市民による新たな文化創造の場となる側面もあり、T S Cとしても協力・連携が欠かせない。

合わせて地域コミュニティ課の事業（地域活性化・地域住民生活等緊急支援交付金事業、広域連携地域づくり事業、地の拠点整備事業等）も、ソーシャルビジネス創出、自治会・町内会の広域連携、学生主体による地域づくりなどを予定しており、新たな事業が展開される。

以上より、多様な主体による市民活動の促進、地域づくりの促進がより一層求められることが予想され、T S Cの役割も地域状況に合わせて変化や広がりが出てくるとともに、状況に応じた支援策を持つことが重要だと考える。

Ⅱ－2 平成 27 年度施設運営方針

①地域づくり実践の場の提供

前年度実施した当センターの事業や機能を活用し、新たな団体やプロジェクトが生まれた。また、団体やプロジェクトには至らないものの「想い」をもった市民が学びの場をきっかけに活動を始めつつある。本年度は、上記の団体やプロジェクト、または個人が、地域づくりを実践しお互いが成長できる場を提供する。

合わせて既存のNPO・町内会・生涯学習団体が住民主体の地域づくり・まちづくりの中心的な役割を果たせるようエンパワメントも継続的に行う。

②地域課題の深掘りと地域連携の促進

新しい広域連携制度の導入に合わせて地域課題の把握と将来的な広域連携のモデルとして、高橋地区の地域づくり懇談会に継続的に参加した。平成 27 年度もモデル地域の拡大と合わせてさらなる地域課題の把握と深掘りをすすめ、TSCとして地域の状況を捉えるとともに課題解決のためのさまざまな連携を促進する。

平成 27 年度実施事業

●参加育成事業

無関心層や潜在的な活動者が新たな地域づくりの人材となるよう発掘・育成の機会を創出する。また、その中から新たな活動者を創出する。

①雑貨市

市民活動・地域づくりを実践している団体などと連携し、市民活動・地域づくりを知る・出会う機会を創出する。活動者同士の交流を創出する。

②地域づくりサロン（継続）

参加者がNPO・市民活動や地域づくりに出会い、体験するプログラム。

③NPOいちから塾（継続）

NPOの立ち上げやスタッフ育成などを想定している方に向けて、NPOの基礎やたがさぼの活用方法を学ぶ講座を年 2 回実施。また、多賀城市で実施する出前講座と連動し、館外での出張NPOいちから塾も合わせて実施する。

④「tag」発行（継続）

地域づくりを市内で活性化するための広報媒体の発行を通年で継続的に実施する。

●自治活動支援事業

住民自治・市民自治を促進するために市民活動の実践者を輩出する、あるいは実践者・既存団体へのエンパワメントし地域づくりを牽引する人材や団体を育成する。

①地域づくり実践塾（新規）

前年度実施した「地域づくりのはじめかた」と「プロジェクトを起こそうプロジェクト」の要素を合わせた連続講座を実施する。市民（受講者）が主体的に地域課題・社会課題を見つけ、活動し、課題を解決できる力を身につける。

②活動お役立ち専門相談（継続）

既存NPO・町内会・生涯学習団体などを対象に、組織基盤強化や事業の継続・拡大への支援を行う。

●地域連携事業

地域内の多様な資源を繋ぎ直し、包括的な課題解決のネットワークを構築する。

①地域課題把握のための場づくり（継続）

多賀城市で将来、導入される広域連携制度に合わせて行われる懇談会などと連携し地域課題の把握や地域の現状を把握しネットワーク構築のための支援を行う。

②地域づくり調査（新規）

「地域福祉」をテーマに関連するNPO等に調査を行い報告書にまとめ、先進事例を交えた報告会を実施する。

●市職員研修事業

市民協働を正しく理解した上で、具体的な手法を学ぶことで市民協働を促進する。

平成 26 年度～28 年度の T S C ロードマップ（作成：20140701 改訂：20150325）

	現状と課題	平成 26 年度(2014)	平成 27 年度(2015)	平成 28 年度(2016)	3 年後の姿
地域づくりに関 わる人材の発 掘と育成	○市民活動・地域活 動に関わる人材 が不足している。 ○既存の市民活動 団体、自治会・町 内会の担い手の 不足、高齢化。 ○パートナーとなり 得る団体の不足。	市民活動への参加の機会の創出 ●無関心層・潜在的活動者の発掘 ・地域づくりサロン ・2、3 階のフリースペース活用 ・地域づくりのはじめかた ・NPO いちから塾 ・プロジェクトを起こそうプロジェクト ・tag 発行事業 ・その他情報発信	地域づくり実践の場の提供 ・地域づくりサロン ・NPO いちから塾 ・tag 発行事業 ・出前サポセンほか ●プロジェクト創造・実践 ・地域づくり実践塾 ●実践の場づくり ・フリースペースの活用	市民活動の質の向上・つながり強化 ●活動者同士の交流・連携の創出 ●活動事例集発行	○市民活動・地域活動 への多様な関わり方 をしている人が増えて いる。 ○既存の団体の運営力 がアップしている。 ○活動者同士の交流・ 連携が増えている。
地域の課題を 解決する、地域 の価値を創造 するためのネッ トワークの構築	○地域で活動してい る人・団体の地域 内の連携が不足し ている。 ○地区間のノウハウ の共有・交換の機 会が少ない。	地域課題の把握 ● ・地域課題の把握のための場づくり	地域課題の深掘りと地域連携促進 ● ・地域課題の把握のための場づくり ・地域づくり調査	ネットワークの構築 ●活動事例集・協働事例集発行	○地域で活動している 人・団体が協力・連携 したり、地区間のノウ ハウの共有・交換が 行われるようになり、 地域の課題解決や地 域の価値の創造に取 り組んでいる。
社会の動き			・東日本大震災から 5 年		
多賀城市の動き		・大代地区公民館指定管理スタート ・地域づくり支援制度スタート ・災害公営住宅入居開始	・多賀城駅前文化交流拠点施設オープン ・5 次総見直し	・復興計画後半 5 年スタート	